

インストールガイド

Novell[®] ZENworks[®] 10 Asset Management SP2

10.2

2009年5月27日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007 - 2009 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を、書面による同意なく、複製、写真複写、検索システムへの登録、送信することは、その形態を問わず禁止します。

米国 Novell, Inc. は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/) の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell Documentation の Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	7
1 最小要件	9
1.1 プライマリサーバ要件	9
1.2 サテライト要件	14
1.2.1 サテライトの役割を実行する Windows デバイス	14
1.2.2 サテライトの役割を実行する Linux デバイス	15
1.3 管理ゾーンのバージョン要件	18
1.4 データベース要件	21
1.5 LDAP ディレクトリ要件	22
1.6 管理対象デバイス要件	22
1.7 インベントリのみデバイス要件	26
1.8 管理ブラウザ要件	28
1.9 インストールユーザ要件	28
2 ZENworks 10 Asset Management SP2 のインストール	29
2.1 ZENworks インストールの理解	30
2.2 インストール情報の収集	31
2.3 インストール前のタスク	31
2.3.1 最小要件を満たしているかの確認	32
2.3.2 ISO ダウンロードからのインストール DVD の作成	32
2.3.3 外部認証局の作成	33
2.3.4 外部 ZENworks データベースのインストール	33
2.4 インストールの実行	42
2.4.1 インストール情報	44
2.5 無干渉インストールの実行	52
2.5.1 レスポンスファイルの作成	53
2.5.2 インストールの実行	54
2.6 インストール後のタスク	56
2.7 ZENworks Adaptive Agent のインストール	56
3 ZENworks 10 Asset Management SP2 のアンインストール	57
3.1 ZENworks ソフトウェアの正しいアンインストール順序	57
3.2 Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスのアンインストール	58
3.3 Linux プライマリサーバのアンインストール	61
3.3.1 ZENworks ソフトウェアをアンインストールしてゾーンからデバイスを削除する	61
3.3.2 デバイスをゾーン内に維持したまま ZENworks ソフトウェアをアンインストールする	62
3.4 Linux サテライトのアンインストール	63
3.4.1 ゾーン操作のアンインストール	63
3.4.2 ローカルアンインストール	64

A	インストール実行可能引数	67
B	トラブルシューティング	69
B.1	インストールのトラブルシューティング	69
B.2	アンインストールのエラーメッセージ	73

このガイドについて

この『ZENworks インストールガイド』には、Novell® ZENworks® 10 Asset Management SP2 システムをインストールする際に役立つ情報が記載されています。このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 9 ページの第 1 章「最小要件」
- ◆ 29 ページの第 2 章「ZENworks 10 Asset Management SP2 のインストール」
- ◆ 57 ページの第 3 章「ZENworks 10 Asset Management SP2 のアンインストール」
- ◆ 67 ページの付録 A「インストール実行可能引数」
- ◆ 69 ページの付録 B「トラブルシューティング」

対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

追加のマニュアル

ZENworks 10 Asset Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式) も用意されています。追加のマニュアルについては、『ZENworks 10 Asset Management (<http://www.novell.com/documentation/zam10/>)』を参照してください。

マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (l) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

最小要件

次のセクションでは、ハードウェアとソフトウェアに関する Novell® ZENworks® 2 Asset Management SP2 最小要件について説明しています。

- ◆ 9 ページのセクション 1.1 「プライマリサーバ要件」
- ◆ 14 ページのセクション 1.2 「サテライト要件」
- ◆ 18 ページのセクション 1.3 「管理ゾーンのバージョン要件」
- ◆ 21 ページのセクション 1.4 「データベース要件」
- ◆ 22 ページのセクション 1.5 「LDAP ディレクトリ要件」
- ◆ 22 ページのセクション 1.6 「管理対象デバイス要件」
- ◆ 26 ページのセクション 1.7 「インベントリのみデバイス要件」
- ◆ 28 ページのセクション 1.8 「管理ブラウザ要件」
- ◆ 28 ページのセクション 1.9 「インストールユーザ要件」

1.1 プライマリサーバ要件

プライマリサーバソフトウェアをインストールするサーバは、次の最小要件を満たしている必要があります。

表 1-1 プライマリサーバ最小要件

項目	要件	追加の詳細
サーバ使用方法	サーバは、プライマリサーバが ZENworks 10 Asset Management に対して実行するタスク以外のタスクも処理することができますが、プライマリサーバソフトウェアをインストールするサーバは、ZENworks 10 Asset Management の作業目的でのみ使用することを推奨します。	たとえば、サーバで次の項目を実行したくない場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ Novell eDirectory のホスト™ ◆ Novell Client32™ のホスト ◆ Active Directory のホスト* ◆ 端末サーバとする その他。

項目	要件	追加の詳細
オペレーティングシステム	<p>Windows:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows Server 2003 SP1/SP2 Ent x86、x86-64 ◆ Windows Server 2003 SP1/SP2 Std x86、x86-64 ◆ Windows Server 2008 SP1/SP2 Ent x86、x86-64 ◆ Windows Server 2008 SP1/SP2 Std x86、x86-64 <p>Linux:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ SUSE® Linux Enterprise Server 10 (SLES 10) x86、x86-64 (Intel および AMD Opteron プロセッサ) ◆ SLES 10 SP1/SP2 x86、x86-64 (Intel および AMD Opteron プロセッサ) ◆ Open Enterprise Server 2 (OES Linux) x86、x86-64 ◆ OES 2 SP1 (Linux) x86、x86-64 	<p>Windows Server 2003 SP1/SP2 Data Center Edition および Windows Server 2008 Core はプライマリサーバプラットフォームとしてサポートされていません。Windows Server 2008 Core は .NET Framework をサポートしていないため、サポートされていません。</p>
ハードウェア	<p>プロセッサ: Pentium® IV 2.8GHz (x86 および x86-64)、または相当する AMD または Intel プロセッサ。</p> <p>プライマリサーバがパッチ管理を実行している場合は、Intel Core® Duo プロセッサなどの高速なプロセッサをお勧めします。</p>	
	<p>RAM: 2GB(最小)、4GB(推奨)</p>	
	<p>ディスク容量: インストールの場合 2GB(最小)、実行の場合 4GB(推奨) 配布する必要のあるコンテンツの量によって、この数値は大きく異なります。</p> <p>パッチ管理ファイルストレージの場合は、追加で 10GB のフリーディスクスペースが必要です。</p>	<p>ZENworks データベースファイルおよび ZENworks コンテンツリポジトリは非常に大きくなる可能性があるため、別のパーティションまたはハードディスクを用意することが必要になる場合があります。</p> <p>Linux サーバの場合は、/var/opt ディレクトリを大容量のパーティションに配置することをお勧めします。このディレクトリにはデータベース(組み込まれている場合)およびコンテンツリポジトリが格納されません。</p>
	<p>画面解像度: 1024×768、256 色。</p>	

項目	要件	追加の詳細
ホスト名の解決	<p>サーバは適切に設定した DNS を使用してデバイスのホスト名を解決する必要があります。デバイスのホスト名を解決しないと、ZENworks の一部の機能は適切に機能しません。</p> <p>サーバ名は、名前にアンダースコアを含めないなど、DNS の要件をサポートしている必要があります。要件をサポートしていないと、ZENworks のログインに失敗します。使用できる文字は、文字 a ~ z (大文字と小文字)、数字、およびハイフン (-) です。</p>	
IP アドレス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバには、静的な IP アドレスまたは永久にリースされる DHCP アドレスを持つ必要があります。 ◆ IP アドレスはターゲットサーバのすべての NIC にバインドされる必要があります。 	IP アドレスがバインドされていない NIC を使用しようとする、インストールはハングします。
Microsoft .NET (Windows のみ)	ZENworks 10 Asset Management をインストールするには、Windows のプライマリサーバに Microsoft .NET 2.0 ソフトウェアと最新アップデートをインストールして実行している必要があります。	<p>ZENworks のインストール中に .NET インストールを開始するオプションがあります。オプションを選択すると、.NET 2.0 がインストールされます。パフォーマンスと安定性を高めるには、Windows 自動更新またはエージェントのパッチ管理で、.NET 2.0 の最新のサポートパックとパッチにアップグレードしてください。</p> <p>.NET 2.0 SP2 は Windows Server 2003 と Windows Server 2008 で Microsoft がサポートする最新バージョンです。Windows Server 2003 では、.NET 2.0 SP2 を直接ダウンロードしてインストールしたり、.NET 2.0 SP2 を含む .NET 3.5 SP1 にアップグレードできます。Windows Server 2008 では、.NET 3.5 SP1 にアップグレードして .NET 2.0 SP2 アップデートをインストールする必要があります。</p>

項目	要件	追加の詳細
Mono (Linux のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Linux プライマリサーバには Mono® 2.0.1-18.1 がインストールされている必要があります。 ◆ 次のRPMパッケージをLinuxプライマリサーバにインストールする必要があります。 <p>bytefx-data-mysql compat-expat1.rpm ibm-data-db2 libgdplus0 mono-basic mono-complete mono-core mono-data mono-data-firebird mono-data-oracle mono-data-postgresql mono-data-sqlite mono-data-sybase mono-devel mono-extras mono-jscript mono-locale-extras mono-nunit mono-web mono-winforms</p>	
ファイアウォール設定 :TCP ポート	80 と 443	<p>ポート 80 および 443 はそれぞれ Tomcat の非セキュアポートおよびセキュアポート用です。</p> <p>Apache などのその他のサービスがポート 80 および 443 で実行されている場合、または OES2 によって使用されている場合、インストールプログラムでは使用する新しいポートを指定するよう求められます。</p> <hr/> <p>重要 : AdminStudio 9.0 Zenworks Edition の使用を予定している場合、プライマリサーバでポート 80 および 443 を使用する必要があります。</p>
	998	<p>プレブートサーバが使用します。</p> <p>プレブートサーバは ZENworks Configuration Managemet でのみ使用されます。</p>

項目	要件	追加の詳細
	2645	CASA 認証で使用されます。このポートを開くことで、ZENworks Asset Management はファイアウォール外部のデバイスを管理できるようになります。このポートで ZENworks サーバと管理対象デバイス上の ZENworks エージェント間の通信を常に許可するようにネットワークを設定することをお勧めします。
	5550	<p>リモート管理リスナがデフォルトで使用します。ZENworks コントロールセンターの [リモート管理リスナ] ダイアログボックスで、このポートを変更できます。</p> <p>リモート管理は ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。</p>
	5950	<p>デフォルトでリモート管理サービスで使用されます。このポートは、ZENworks コントロールセンターのリモート管理設定ページの [リモート管理設定] パネルで変更できます。</p> <p>リモート管理は ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。</p>
	7628	Adaptive Agent で使用されます。
	8005	Tomcat でシャットダウン要求のリスンに使用されます。これはローカルポートで、リモートでアクセスできません。
	8009	Tomcat AJP コネクタで使用されます。
ファイアウォール設定 :UDP ポート	67	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行していない場合に使用します。
	69	<p>イメージング TFTP で使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。</p> <p>イメージング TFTP は ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。</p>
	997	<p>イメージングサーバがマルチキャストに使用します。</p> <p>イメージングサーバは ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。</p>

項目	要件	追加の詳細
	4011	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行している場合に使用します。ファイアウォールがプロキシ DHCP サービスへのブロードキャストトラフィックを許可するように設定されていることを確認してください。
	13331	zmgpreboot ポリシーで使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。 zmgpreboot ポリシーは ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。
仮想マシン環境	ZENworks Asset Management サーバソフトウェアは、次の仮想マシン環境でインストールできます。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ VMware ◆ Microsoft Virtual Server ◆ XEN 	VMware ESX 3.5 上で SLES 10 32 ビット ゲスト OS を使用している場合は、VMI カーネルを使用しないでください。詳細については、 Novell Support Knowledgebase (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) で TID 7002789 を参照してください。

1.2 サテライト要件

サテライトは ZENworks プライマリサーバが通常実行する特定の役割を実行できるデバイスです。サテライトは管理対象デバイス (Windows) の場合も、管理されていないデバイス (Linux) の場合もあります。

詳細情報については、次のセクション参照してください。

- ◆ [14 ページのセクション 1.2.1 「サテライトの役割を実行する Windows デバイス」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 1.2.2 「サテライトの役割を実行する Linux デバイス」](#)

1.2.1 サテライトの役割を実行する Windows デバイス

通常の機能のほか、Windows デバイスをサテライトとして使用できます。これらの管理対象デバイスをサテライトとして使用する場合は、デバイスがサテライト機能を実行できることを確認してください。

サテライトの役割を実行する Windows デバイスは、[22 ページのセクション 1.6 「管理対象デバイス要件」](#) のリストに表示された Windows 管理対象デバイスの最小要件を満たす必要がありますが、次の例外があります。

- ◆ Windows Embedded XP は、サテライトデバイスとしてサポートされたワークステーションオペレーティングシステムではありません。
- ◆ サテライトデバイスでは、TCP および UDP ポートを余分に開く必要があります。

次のテーブルは、サテライトデバイスで追加で開く必要がある TCP および UDP ポートを示します。

表 1-2 サテライトの役割を実行する管理対象デバイスに必要な追加ポート

項目	要件	追加の詳細
ファイアウォール設定 :TCP ポート	80	ポートが親プライマリサーバで使用される HTTP ポートと同じであることを確認してください。 重要 : AdminStudio 9.0 Zenworks Edition の使用を予定している場合、プライマリサーバでポート 80 を使用する必要があります。
	998	プレブートサーバが使用します。 プレブートサーバは ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。
	2645	CASA 認証で使用されます。このポートを開くことで、ZENworks Asset Management はファイアウォール外部のデバイスを管理できるようになります。このポートで ZENworks サーバと管理対象デバイス上の ZENworks エージェント間の通信を常に許可するようにネットワークを設定することをお勧めします。
ファイアウォール設定 :UDP ポート	67	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行していない場合に使用します。
	69	イメージング TFTP で使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。 イメージング TFTP は ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。
	997	イメージングサーバがマルチキャストに使用します。 イメージングサーバは ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。
	4011	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行している場合に使用します。ファイアウォールがプロキシ DHCP サービスへのブロードキャストトラフィックを許可するように設定されていることを確認してください。
	13331	zmgpreboot ポリシーで使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。 zmgpreboot ポリシーは ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。

1.2.2 サテライトの役割を実行する Linux デバイス

現在、ZENworks Asset Management では Windows デバイスのみを管理できます。ただし、サテライトの役割を実行するのに、管理されない Linux デバイスを使用できます。

サテライトの役割を実行する Linux デバイスは、次下の最小要件を満たす必要があります。

表 1-3 サテライトの役割を実行する Linux デバイスの最小要件

項目	要件	追加の詳細
オペレーティングシステム：サーバ	SLES 10 x86、x86-64 (Intel および AMD Opteron* プロセッサ) SLES 10 SP1/SP2 x86、x86-64 OES Linux 2 SP1 x86、x86-64	
オペレーティングシステム：ワークステーション	SUSE Linux Enterprise Desktop 10 (SLED 10) SP1/SP2 x86、x86-64	
ハードウェア	<ul style="list-style-type: none"> ◆ プロセッサ：Pentium* IV 2.8GHz 32 ビット (x86) および 64 ビット (x86-64)、または相当する AMD または Intel プロセッサ。 ◆ RAM：512MB(最小)、2GB(推奨)。 ◆ ディスク容量：インストールの場合 128GB(最小)、実行の場合 4GB(推奨) 配布する必要のあるコンテンツの量によって、この数値は大きく異なります。 ◆ ディスプレイ解像度：1024×768、256 色。 	
ホスト名の解決	<ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバは、DNS(推奨)などの方法を使用して、デバイスのホスト名を解決する必要があります。 ◆ サーバ名は、名前にアンダースコアを含めないなど、DNS の要件をサポートしている必要があります。要件をサポートしていないと、ZENworks のログインに失敗します。使用できる文字は、文字 a～z (大文字と小文字)、数字、およびハイフン (-) です。 DNS を使用する場合、正しくセットアップしないと、ZENworks の一部の機能が動作しない可能性があります。 	
IP アドレス	<ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバには、静的な IP アドレスまたは永久にリースされる DHCP アドレスを持つ必要があります。 ◆ IP アドレスはターゲットサーバのすべての NIC にバインドされる必要があります。 	IP アドレスがバインドされていない NIC を使用しようとすると、エージェントインストールはハングします。

項目	要件	追加の詳細
TCP ポート	80	80 は Tomcat の非セキュアポート用です。 サーバがポート 80 および 443 で Apache などの他のサービスを実行している場合、または OES2 によって使用されている場合、インストールプログラムでは使用する新しいポートを指定するよう求められます。ただし、ポートが親プライマリサーバで使用される HTTP ポートと同じであることを確認する必要があります。
	998	プレブートサーバが使用します。 プレブートサーバは ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。
	7628	Adaptive Agent で使用されます。
	8005	Tomcat でシャットダウン要求のリスンに使用されます。これはローカルポートで、リモートでアクセスできません。
	8009	Tomcat AJP コネクタで使用されません。
UDP ポート	67	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行していない場合に使用します。
	69	イメージング TFTP で使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。 イメージング TFTP は ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。
	997	イメージングサーバがマルチキャストに使用します。 イメージングサーバは ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。
	4011	プロキシ DHCP が DHCP サーバと同じデバイスで実行している場合に使用します。ファイアウォールがプロキシ DHCP サービスへのブロードキャストトラフィックを許可するように設定されていることを確認してください。

項目	要件	追加の詳細
	13331	<p>zmgpreboot ポリシーで使用されますが、各 PXE デバイスにランダムな UDP ポートを開くため、ファイアウォールを越えては機能しません。</p> <p>zmgpreboot ポリシーは ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。</p>
仮想マシン環境	<p>ZENworks Asset Management サーバソフトウェアは、次の仮想マシン環境でインストールできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ VMware ◆ XEN 	

1.3 管理ゾーンのバージョン要件

既存の管理ゾーンに別のプライマリサーバをインストールする場合は、インストールメディアの製品バージョンが管理ゾーンの製品バージョンと互換性がある必要があります。例を次に示します。

表 1-4 管理ゾーンのバージョンとインストールメディアのバージョンの互換性

管理ゾーンの製品バージョン	互換性のあるインストールメディア	互換性のないインストールメディア
<p>10.0.0: ZENworks 10 Asset Management (初期リリース、電子版のみ)。</p> <p>バージョンは、管理ゾーンに最初のサーバをインストールすると設定されます。</p>	<p>ZENworks 10 Asset Management (10.0.0: 初期リリース、電子版のみ)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 管理ゾーンのバージョン以上の全バージョンの製品。
<p>10.0.1: ZENworks 10 Asset Management (メディアおよび電子版リリース)。</p> <p>バージョンは、管理ゾーンに最初のサーバをインストールすると設定されます。</p>	<p>ZENworks 10 Asset Management (10.0.1: メディアおよび電子版リリース)。</p> <p>または</p> <p>バージョン 10.0.0 から更新を実行するには、Novell サポートナレッジベース (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 3407754 を参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks 10 Asset Management (10.0.0: 初期リリース、電子版のみ)。 ◆ 管理ゾーンのバージョン以上の全バージョンの製品。

管理ゾーンの製品バージョン	互換性のあるインストールメディア	互換性のないインストールメディア
<p>10.0.2: ZENworks 10 Asset Management 用アップデート。</p> <p>バージョンは、ZENworks コントロールセンターのシステム更新機能を使用して管理ゾーン内の ZENworks データベースをバージョン 10.0.2 に更新すると設定されます。これは、アップデートタスクを実行するプライマリサーバによって処理されます。</p> <p>システム更新の詳細については、『ZENworks システム更新の概要』の「ZENworks 10 Management システム管理リファレンス」を参照してください。</p>	<p>ZENworks 10 Asset Management (10.0.1: メディアおよび電子版リリース)。次のいずれかの条件の場合、新しくインストールしたサーバは自動的にバージョン 10.0.2 にアップデートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ゾーンの一部のみがアップデートされている場合、新しいサーバをインストールすると、アップデートがゾーン内の残りのデバイスに移動する際に、サーバは自動的にアップデートされます。 ◆ 設定されているアップデートステージがすべて完了している場合、新しいサーバはインストール後に自動的にアップデートされます。 ◆ ステージングを省略するよう選択した場合、新しいサーバはインストール後に自動的にアップデートされます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks 10 Asset Management (10.0.0: 初期リリース、電子版のみ)。 ◆ 管理ゾーンのバージョン以上の全バージョンの製品。

管理ゾーンの製品バージョン	互換性のあるインストールメディア	互換性のないインストールメディア
<p>10.0.3: ZENworks 10 Asset Management 用アップデート。</p> <p>バージョンは、新しいインストールメディアまたはシステム更新機能を使用してインストールを実行し、管理ゾーン内のZENworks データベースをバージョン 10.0.3 にアップデートすると、設定されます。</p> <p>システム更新の詳細については、『ZENworks システム更新の概要』の「ZENworks 10 Management システム管理リファレンス」を参照してください。</p>	<p>ZENworks 10 Asset Management アップデート (10.0.3: メディアおよび電子版リリース)。次のいずれかの条件の場合、新しくインストールしたサーバは自動的にバージョン 10.0.3 にアップデートされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ゾーンの一部のみがアップデートされている場合、新しいサーバをインストールすると、アップデートがゾーン内の残りのデバイスに移動する際に、サーバは自動的にアップデートされます。 ◆ 設定されているアップデートステージがすべて完了している場合、新しいサーバはインストール後に自動的にアップデートされます。 ◆ ステージングを省略するよう選択した場合、新しいサーバはインストール後に自動的にアップデートされます。 <p>旧バージョンのメディア (バージョン 10.0.3 未満) のインストールを使用すると、ゾーンに対する認証が失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p>入力された資格情報が指定したプライマリサーバ上で有効ではありません。サーバアドレスおよび資格情報、またはネットワーク接続 (あるいはその両方) を確認し、再度実行してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks 10 Asset Management (10.0.0: 初期リリース、電子版のみ)。 ◆ ZENworks 10 Asset Management (10.0.1: 初期メディアリリース)。 ◆ 管理ゾーンのバージョン以上の全バージョンの製品。

1.4 データベース要件

ZENworks のデフォルトとして使用できる組み込みの Sybase SQL Anywhere データベース以外を ZENworks 10 Asset Management データベース用のデータベースに使用する場合、データベースは次の最小要件を満たしている必要があります。

表 1-5 データベースの最小要件

項目	最小要件
データベースバージョン	Sybase SQL Anywhere 10.0.1 Microsoft SQL Server 2005 (Enterprise および Standard エディションがサポートされています) Oracle 10g Standard - 10.2.0.1.0
デフォルトの文字セット	Sybase および MS SQL の場合、UTF-8 文字セットが必要です。 Oracle の場合、NLS_CHARACTERSET パラメータを AL32UTF8 に設定し、NLS_NCHAR_CHARACTERSET パラメータを AL16UTF16 に設定する必要があります。
TCP ポート	サーバはデータベースポート上のプライマリサーバ通信を許可する必要があります。デフォルトポートは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">◆ MS SQL は 1433◆ Sybase SQL は 2638◆ Oracle は 1521 <p>重要: 競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。ただし、プライマリサーバがデータベースと通信するようにポートが開いている必要があります。</p>
WAN/SQL に関する注意事項	プライマリサーバと SQL データベースは同じネットワークセグメント上に存在する必要があります。プライマリサーバは WAN を超えて SQL データベースに書き込むことはできません。

1.5 LDAP ディレクトリ要件

ZENworks 10 Asset Management は、ZENworks 管理者アカウントの作成およびユーザとデバイスの関連付けなどのユーザ関連のタスクについて、既存のユーザソース (ディレクトリ) を参照できます。LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) は、ユーザと相互作用するために ZENworks によって使用されるプロトコルです。

表 1-6 LDAP ディレクトリの最小要件

項目	要件
LDAP バージョン	LDAP v3 OPENLDAP はサポートされていません。ただし、SUSE Linux サーバに eDirectory がインストールされている場合は、eDirectory をユーザソースとして使用できます。LDAP v3 を使用する場合、eDirectory のインストール時に指定した代替ポート (デフォルトポートは OPENLDAP が使用している可能性があるため) を使用して Linux サーバ上の eDirectory にアクセスできます。
信頼されたユーザソース	<ul style="list-style-type: none">◆ Novell eDirectory™ 8.7.3 (サポートされているすべてのプラットフォーム)◆ Microsoft Active Directory (Windows 2000 SP4 以上に付属)
LDAP ユーザアクセス	ZENworks は、LDAP ディレクトリへの読み込みアクセスのみが必要です。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management 管理クイックスタート』の「 ユーザソースへの接続 」を参照してください。

1.6 管理対象デバイス要件

ZENworks Adaptive Agent はプライマリサーバを含むすべての管理対象デバイスにインストールされる、管理ソフトウェアです。現在、Windows デバイスは管理できますが、Linux デバイスはできません。ただし、Linux サーバにプライマリサーバソフトウェアをインストールすると、Adaptive Agent の一部が有効になり、Linux プライマリサーバでもシステム更新機能を使用できるようになります。

管理対象デバイスはサテライトとして使用できます。管理対象デバイスをサテライトとして使用する場合は、このセクションに示す要件に加えて、デバイスがサテライト機能を実行でき、14 ページのセクション 1.2 「サテライト要件」に示す要件を満たすことを確認してください。

ZENworks 10 Asset Management は、次の最小要件を満たすワークステーションおよびサーバを管理できます。

表 1-7 管理対象デバイスの最小要件

項目	要件	追加の詳細
オペレーティングシステム :Windows サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 2000 Server SP4 ◆ Windows Server 2003 SP1/SP2 Ent x86、x86-64 ◆ Windows Server 2003 SP1/SP2 Std x86、x86-64 ◆ Windows Server 2008 SP1/SP2 Ent x86、x86-64 ◆ Windows Server 2008 SP1/SP2 Std x86、x86-64 	Windows Server 2008 Core は管理対象デバイスのプラットフォームとしてはサポートされていません。これは、Windows Server 2008 Core では .NET Framework がサポートされていないためです。
オペレーティングシステム :Windows ワークステーション	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 2000 Professional SP4 x86 ◆ Embedded XP SP2/SP3 ◆ Windows Vista* SP1/SP 2 x86、x86-64 (Business、Ultimate、および Enterprise バージョンのみ。Home バージョンはサポートされません) ◆ Embedded Vista ◆ Embedded Vista SP1/SP2 ◆ Windows XP Professional SP2/SP3 x86 および SP3 x86 ◆ Windows XP Tablet PC Edition SP2 	
オペレーティングシステム :シンクライアントセッション	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 2000 Server SP4 x86 ◆ Windows Server 2003 SP1/SP2 Ent x86、x86-64 ◆ Windows Server 2003 SP1/SP2 Std x86、x86-64 ◆ Windows Server 2008 SP1/SP2 Ent x86、x86-64 ◆ Windows Server 2008 SP1/SP2 Std x86、x86-64 ◆ Citrix* XenApp MetaFrame XP ◆ Citrix XenApp Presentation Server 4.0 ◆ Citrix XenApp Presentation Server 4.5 	Windows Server 2008 Core は管理対象デバイスのプラットフォームとしてはサポートされていません。これは、Windows Server 2008 Core では .NET Framework がサポートされていないためです。

項目	要件	追加の詳細
ハードウェア	<p>ハードウェアの最小要件は次のとおりです。これらの要件またはオペレーティングシステムで指定されるハードウェア要件のうち、要件が高い方を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ プロセッサ :Pentium III 700MHz、または相当する AMD または Intel ◆ RAM:256MB(最低)、512MB(推奨) ◆ ディスプレイ解像度 :1024×768、256 色 	
自動 ZENworks Adaptive Agent 展開	<p>Adaptive Agent を管理対象デバイスに自動的に展開するには、次の条件が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ファイアウォールがファイルおよび印刷共有を許可していること ◆ Windows XP デバイス上で、簡易ファイル共有がオフになっていること ◆ 管理者資格情報がインストールするデバイスに既知であること ◆ ZENworks サーバと管理対象デバイスの両方の日付と時刻が正しいことを確認すること ◆ [Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有] オプションが有効になっていること。 	<p>前提条件の詳細については、『デバイスに展開するための前提条件』の「ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス」を参照してください。</p>

項目	要件	追加の詳細
Microsoft .NET	ZENworks 10 Asset Management をインストールするには、管理対象デバイスに Microsoft* .NET 2.0 ソフトウェアと最新アップデートをインストールして実行している必要があります。	<p>ZENworks のインストール中に .NET インストールを開始するオプションがあります。オプションを選択すると、.NET 2.0 がインストールされます。パフォーマンスと安定性を高めるには、Windows 自動更新またはエージェントのパッチ管理で、.NET 2.0 の最新のサポートパックとパッチにアップグレードしてください。</p> <p>.NET 2.0 SP1 は Microsoft が Windows 2000 でサポートする最新バージョンです。.NET 2.0 SP2 は、Microsoft が Windows XP、Windows Server 2003、Windows Server 2008、Windows Vista でサポートする .NET 2.0 の最新バージョンです。</p> <p>Windows XP と Windows Server 2003 では、.NET 2.0 SP2 を直接ダウンロードしてインストールしたり、.NET 2.0 SP2 を含む .NET 3.5 SP1 にアップグレードできます。Windows Vista および Windows Server 2008 では、.NET 3.5 SP1 にアップグレードして .NET 2.0 SP2 アップデートをインストールする必要があります。</p>
TCP ポート	7628	<p>管理対象デバイスの ZENworks Adaptive Agent の ZENworks コントロールセンターでステータスを表示するために、Windows ファイアウォールを使用している場合、ZENworks はデバイスのポート 7628 を自動的に開きます。ただし、別のファイアウォールを使用している場合は、このポートを手動で開く必要があります。</p> <p>ZENworks コントロールセンターからクライアントにクイックタスクを送信する場合は、デバイスのポート 7628 も開く必要があります。</p>
	5950	<p>ZENworks Adaptive Agent が実行されているリモート管理では、デバイスはポート 5950 でリスンします。</p> <p>このポートは ZENworks コントロールセンター ([設定] タブ > [管理ゾーンの設定] > [デバイス管理] > [リモート管理]) で変更できます。</p> <p>リモート管理は ZENworks Configuration Management でのみ使用されます。</p>

項目	要件	追加の詳細
仮想マシン環境	ZENworks 管理対象デバイスソフトウェアは、次の仮想マシン環境でインストールできます。	
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ VMware ◆ Microsoft Virtual Server ◆ XEN 	

1.7 インベントリのみデバイス要件

ZENworks 10 Asset Management を使用して、ZENworks Adaptive Agent で管理できないワークステーションとサーバのインベントリを作成できます。インベントリのみデバイスは、次の最小要件を満たしている必要があります。

表 1-8 インベントリのみデバイスの最小要件

項目	要件
オペレーティングシステム：サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ AIX 4.3-5.3 IBM pSeries (RS6000) ◆ HP-UX 10.20-11.23 HP PA-RISC (HP9000) ◆ NetWare® 5.1、6、6.5¹ ◆ OES (NetWare)¹ ◆ Red Hat Enterprise Linux 2.1 ~ 4.x ◆ Solaris 2.6 ~ 10 Sun SPARC (32 および 64 ビット) ◆ SUSE Linux Enterprise Server 8.0 ~ 10 (すべてのエディション) ◆ Windows 2000 Server SP4 x86 ◆ Windows Server 2003 SP1 Ent x86、x86-64 ◆ Windows Server 2003 SP1 Std x86、x86-64 ◆ Windows Server 2008 Ent x86、x86-64 ◆ Windows Server 2008 Std x86、x86-64 ◆ Windows NT 4.0 <p>¹ それぞれの NetWare オペレーティングシステムは、最新のサポートパックおよび libc.nlm 用の最新パッチを備えていることが必要です。</p>
オペレーティングシステム：ワークステーション	<ul style="list-style-type: none"> ◆ Mac OS[*] X 10.2.4 以降 ◆ Red Hat Linux 7.1 ~ 9 ◆ SUSE Linux Enterprise Desktop 8.0 ~ 10 (すべてのエディション) ◆ Windows 95

項目	要件
オペレーティングシステム : セッション	<p>シンクライアントセッション :</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ Windows 2000 Server SP4 x86 ◆ Windows Server 2003 SP2 x86、x86-64 ◆ Citrix XenApp MetaFrame XP ◆ Citrix XenApp Presentation Server 4.0 ◆ Citrix XenApp Presentation Server 4.5
インベントリのみモジュール	<p>ZENworks 10 Asset Management をネットワークにインストールしたら、前に示したデバイスをインベントリに含めるために、このモジュールを前に示したデバイスにインストールする必要があります。詳細については、『インベントリのみモジュールの展開』の「ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス」を参照してください。</p>
システムライブラリ :AIX	<p>次のシステムライブラリが AIX デバイスに必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ /unix ◆ /usr/lib/libc.a (shr.o) ◆ /usr/lib/libc.a (pse.o) ◆ /usr/lib/libpthread.a (shr_xpg5.o) ◆ /usr/lib/libpthread.a (shr_comm.o) ◆ /usr/lib/libpthreads.a (shr_comm.o) ◆ /usr/lib/libstdc++.a (libstdc++.so.6) ◆ /usr/lib/libgcc_s.a (shr.o) ◆ /usr/lib/libcurl.a (libcurl.so.3) ◆ /usr/lib/libcrypt.a (shr.o)
システムライブラリ :HP-UX	<p>次のシステムライブラリが HP-UX デバイスに必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ /usr/lib/libc.1 ◆ /usr/lib/libc.2 ◆ /usr/lib/libdld.1 ◆ /usr/lib/libdld.2 ◆ /usr/lib/libm.2 ◆ /usr/local/lib/libcrypto.sl ◆ /opt/openssl/lib/libcrypto.sl.0 ◆ /opt/openssl/lib/libssl.sl.0 ◆ /usr/local/lib/libiconv.sl ◆ /usr/local/lib/libintl.sl ◆ /usr/local/lib/gcc-lib/hppa1.1-hp-hpux11.00/3.0.2/../../../../libidn.sl

1.8 管理ブラウザ要件

ZENworks コントロールセンターを実行してシステムを管理するワークステーションまたはサーバが次の最小要件を満たしていることを確認します。

表 1-9 管理ブラウザ最小要件

項目	要件
Web ブラウザ	管理デバイスは次の Web ブラウザの 1 つがインストールされている必要があります。 <ul style="list-style-type: none">◆ Internet Explorer 7 (Windows Vista、Windows Server 2003、Windows XP、および Windows 2008)◆ Firefox* 2.0 (Windows のみ) <p>注：Firefox 3.0 はサポートされていません。</p>
JRE 5.0	Image Explorer を実行するには、管理デバイス上で Java* Virtual Machine* (JVM*) バージョン 1.5 をインストールして実行している必要があります。
TCP ポート	管理対象デバイス上でのリモートセッションに対するユーザの要求を満たすには、Remote Management Listener を実行するために管理コンソールデバイス上でポート 5550 を開く必要があります。

1.9 インストールユーザ要件

インストールプログラムを実行するユーザは、デバイスに対する管理権限を持っている必要があります。たとえば、次のようにします。

- ◆ **Windows:** Windows 管理者としてログインします。
- ◆ **Linux:** root 以外のユーザとしてログインし、su コマンドを使用して権限を root に昇格させてから、インストールプログラムを実行します。

ZENworks 10 Asset Management SP2 のインストール

2

Novell® ZENworks® 10 インストールメディアには、次の製品が含まれています。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP2
- ◆ ZENworks 10 Asset Management SP2
- ◆ ZENworks 10 Patch Management SP2
- ◆ Asset Inventory for UNIX/Linux

4 つの製品すべてが常にインストールされます。製品は、インストール中またはインストール後に有効な製品ライセンスを指定 (ZENworks 管理コンソール上で) して有効化します。製品に有効なライセンスを持っていない場合、製品を 60 日間評価できます。インストール時またはインストール後に評価期間を開始できます。

Configuration Management と Asset Management は、一緒に使用することも個別に使用することもできます。Patch Management には Configuration Management が必要です。Asset Inventory for UNIX/Linux には Configuration Management または Asset Management が必要です。

次のセクションのタスクを実行して ZENworks 10 ソフトウェアをインストールします。

- ◆ 30 ページのセクション 2.1 「ZENworks インストールの理解」
- ◆ 31 ページのセクション 2.2 「インストール情報の収集」
- ◆ 31 ページのセクション 2.3 「インストール前のタスク」
- ◆ 42 ページのセクション 2.4 「インストールの実行」
- ◆ 52 ページのセクション 2.5 「無干渉インストールの実行」
- ◆ 56 ページのセクション 2.6 「インストール後のタスク」
- ◆ 56 ページのセクション 2.7 「ZENworks Adaptive Agent のインストール」

警告 : ZENworks 10 Asset Management のテスト中やレビュー中には、製品を運用環境に展開しないでください。ZENworks 10 Asset Management は固有の ZENworks データベースを使用するため (Novell eDirectory™ または Microsoft Active Directory* は不要)、運用目的では使用されないネットワークのテストサーバにインストールする必要があります。

デバイスをテスト環境で管理する場合は、以前の ZENworks デスクトップ管理エージェントまたは ZENworks Patch Management エージェントがインストールされていないデバイスを使用するのが最適です。このようにする場合、次のことに注意してください。

- ◆ ZENworks 10 Adaptive Agent をインストールすると、ZENworks エージェントの ZENworks 10 以外のバージョン (バージョン 7、バージョン 4 など) が自動的にアンインストールされます。ZENworks 10 Adaptive Agent と以前の ZENworks デスクトップ管理エージェントは、同じデバイス上に共存できません。
- ◆ Adaptive Agent をインストールしても、ZENworks 7 または ZENworks Patch Management 6.4 に含まれる ZENworks Patch Management Agent のバージョンはアンインストールされません。Adaptive Agent と以前の Patch Management エージェントは共存できます。

以前の Patch Management バージョンの代わりに ZENworks 10 Patch Management を使用する場合は、ZENworks Adaptive Agent は ZENworks 10 Patch Management と使用されるため、以前の Zenworks Patch Management エージェントを削除できます。

2.1 ZENworks インストールの理解

初めて ZENworks 10 Asset Management をインストールするときには、最初にインストールするサーバであるプライマリサーバで管理ゾーンを確立します。その他のプライマリサーバは、その後で管理ゾーンにインストールできます。

ZENworks インストールプログラムは最初のプライマリサーバのインストール中に次のことを実行します。

- ◆ 管理ゾーンの作成
- ◆ デフォルトの ZENworks 管理者アカウント用に入力するパスワードの作成
- ◆ ZENworks データベースの確立と入力

ZENworks インストールではプライマリサーバのインストール中に次ことを実行します。

- ◆ 管理するための ZENworks Adaptive Agent (Windows サーバのみ) のインストール
- ◆ ZENworks Control Center (ZCC) のインストール
- ◆ zman コマンドラインユーティリティのインストール
- ◆ ZENworks サービスのインストールおよび起動

Adaptive Agent はプライマリサーバ上のファイルから管理対象ワークステーションにインストールされます。詳細については、『[ZENworks 10 Asset Management 管理クイックスタート](#)』の「[ZENworks Adaptive Agent の展開](#)」を参照してください。

次の 3 つのインストール方法があります。

- ◆ **グラフィカルユーザインタフェース** : Windows および Linux サーバの両方で動作するグラフィカルユーザインタフェース (GUI) インストールプログラムはインストール CD に収録されています。Linux サーバの場合は、GUI 機能がすでにインストールされている必要があります。
- ◆ **コマンドライン** : コマンドラインインストールは Linux サーバでのみ利用可能です。Windows および Linux インストール実行可能ファイルはどちらもインストール引数を使用する目的でコマンドラインから実行できますが、Windows の場合は GUI インストールプログラムが開始されるのみです。
- ◆ **無干渉** : いずれかのインストール方法を使用して ZENworks を他のサーバへ無干渉でインストールするためのレスポンスファイルを作成することができます。詳細については、[52 ページのセクション 2.5 「無干渉インストールの実行」](#)を参照してください。

ZENworks をインストールする前に知っておく必要がある事項を学習するには、[31 ページのセクション 2.2 「インストール情報の収集」](#)を続けて参照してください。

2.2 インストール情報の収集

ZENworks 10 Asset Management のインストールに際して、次の情報を知っておく必要があります。

- ◆ 使用するインストール方法 (GUI、コマンドライン、または無干渉)
- ◆ インストールパス (Windows のみ)
- ◆ 管理ゾーン (ゾーン名、ユーザ名、パスワード、およびポート)
- ◆ 選択したデータベース (組み込み Sybase SQL、リモート OEM Sybase SQL、外部 Sybase SQL、外部 Microsoft SQL、または Oracle 10g Standard データベース)

詳細については、[31 ページのセクション 2.3 「インストール前のタスク」](#) を参照してください。

- ◆ データベース情報 (サーバ名、ポート、データベース名、ユーザ名、パスワード、名前付きインスタンス、ドメイン、および Windows または SQL Server 認証のどちらを使用しているか)

Oracle および MS SQL の場合は、データベースユーザ名が次の表記規則に従っていることを確認してください。

- ◆ 名前は英文字で始まる必要があります。
- ◆ -(ハイフン)または.(ピリオド)のみです。また、Oracle の場合はユーザ名に@を使用できません。
- ◆ DER フォーマットの認証局情報 (内部、または署名証明書、秘密鍵、およびパブリック証明書)
- ◆ ライセンスキー (60 日間の試用オプションが使用できます)

アイテムの詳細については、[44 ページの i 2-5§ 「インストール情報」](#) を参照してください。

ZENworks インストールを開始するには、[31 ページのセクション 2.3 「インストール前のタスク」](#) に進んでください。

2.3 インストール前のタスク

次のうち該当するタスクを実行して、[42 ページのセクション 2.4 「インストールの実行」](#) に進みます。

- ◆ [32 ページのセクション 2.3.1 「最小要件を満たしているかの確認」](#)
- ◆ [32 ページのセクション 2.3.2 「ISO ダウンロードからのインストール DVD の作成」](#)
- ◆ [33 ページのセクション 2.3.3 「外部認証局の作成」](#)
- ◆ [33 ページのセクション 2.3.4 「外部 ZENworks データベースのインストール」](#)

2.3.1 最小要件を満たしているかの確認

ZENworks インストールを開始する前に、次の要件を満たしていることを確認してください。

- ◆ プライマリサーバソフトウェアをインストールするデバイスが、必要な要件を満たしていることを確認します。詳細については、**9 ページの第 1 章「最小要件」**を参照してください。
- ◆ (条件付き) プライマリサーバソフトウェアを 64 ビット Windows Server 2003 または 64 ビット Windows Server 2008 にインストールする場合は、デバイスに Windows Installer 4.5 以降がインストールされていることを確認してください。

2.3.2 ISO ダウンロードからのインストール DVD の作成

ZENworks ソフトウェアを ISO イメージのダウンロードとして入手した場合は、次のいずれかの操作を行ってインストール DVD を作成します。

- ◆ **32 ページの「Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する」**
- ◆ **32 ページの「Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する」**

Windows を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

- 1 ZENworks 10 Asset Management SP2 インストール ISO イメージを **Novell Web サイト (<http://www.novell.com/>)** からダウンロードして、一時的に Windows デバイスの適当な場所にコピーします。
- 2 ISO イメージを DVD に記録します。

Linux を使用して ISO イメージから ZENworks インストール DVD を作成する

オプションで、DVD に記録する代わりに ISO マウントポイントからインストールプログラムを実行することもできます。

- 1 ZENworks 10 Asset Management SP2 インストール ISO イメージを **Novell Web サイト (<http://www.novell.com/>)** からダウンロードして、一時的に Linux デバイスの適当な場所にコピーします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。

- ◆ 次のコマンドを使用して ISO イメージをマウントします。

```
mount -o loop /tempfolderpath/isoimagename.iso mountpoint
```

tempfolderpath を一時フォルダへのパスと置き換えて、*isoimagename* を ZENworks ISO ファイル名と置き換え、*mountpoint* をイメージをマウントするファイルシステムの場所へのパスと置き換えます。*mountpoint* によって指定されたパスはすでに存在している必要があります。

例を次に示します。

```
mount -o loop /zam10/zam10.iso /zam10/install
```

- ◆ ISO イメージを DVD に記録します。

2.3.3 外部認証局の作成

外部認証局 (CA) を使用する予定の場合は、`openssl` をインストールし、次の操作を行って証明書ファイルを作成します。

- 1 証明書署名要求 (CSR) の作成に必要な秘密鍵を作成するために、次のコマンドを入力します。

```
openssl genrsa -out zcm.pem 1024
```

- 2 外部 CA が署名できる CSR を作成するために、次のコマンドを入力します。

```
openssl req -new -key zcm.pem -out zcm.csr
```

「YOUR name」を入力するようメッセージが表示されたら、ZENworks 10 Asset Management をインストールするサーバに割り当てられている完全 DNS 名を入力します。

- 3 秘密鍵を PEM フォーマットから DER フォーマットに変換するには、次のコマンドを入力します。

```
openssl pkcs8 -topk8 -nocrypt -in zcm.pem -inform PEM -out zcm.der -outform DER
```

秘密鍵は PKCS8 DER フォーマットでなければならず、署名証明書は X.509 DER フォーマットでなければなりません。OpenSSL コマンドラインツールを使用して鍵を適切なフォーマットに変換することができます。このツールは Cygwin ツールキットの一部として入手するか、Linux 配布パッケージの一部として入手できます。

- 4 CSR を使用し、ConsoleOne または実際の外部 CA (Verisign など) を使用して証明書を生成します。
- 5 ConsoleOne を使用して、CA の自己署名証明書をエクスポートします。
- 6 署名証明書を PEM フォーマットから DER フォーマットに変換するには、次のコマンドを入力します。

```
openssl x509 -in cert.pem -inform PEM -out cert.der -outform DER
```

以上で、外部 CA を使用して ZENworks をインストールするために必要な 3 つのファイルを準備できました。

2.3.4 外部 ZENworks データベースのインストール

埋め込み Sybase データベースを ZENworks 10 Configuration Management にインストールして使用する場合は、[42 ページのセクション 2.4 「インストールの実行」](#) を参照してください。

外部データベースを設定する場合は、次のオプションがあります。

- ◆ **プライマリサーバのインストール中にデータベースを設定する**：これは最も時間がかからない、簡単な方法です。この方法の詳細は、[42 ページのセクション 2.4 「インストールの実行」](#) を参照してください。
- ◆ **プライマリサーバのインストール前に外部でデータベースを設定する**：このオプションは、データベース管理者と ZENworks 管理者が異なる場合に特に便利です。この方法の詳細は、このセクションで説明されています。

ZENworks インストール時に、外部 ZENworks データベースをインストールまたは作成する次のオプションがあります。

- ◆ 新規のリモート OEM Sybase データベースにインストールする
- ◆ 既存の Sybase SQL Anywhere 外部データベースにインストールする
- ◆ 既存の Microsoft SQL Server 外部データベースにインストールする
- ◆ 新しい Microsoft SQL Server 外部データベースを作成する
- ◆ 既存の Oracle 10g ユーザスキーマにインストールする
- ◆ 新しい Oracle 10g ユーザスキーマを作成する

これらのオプションによっては、ZENworks がインストール中に書き込めるように、外部データベースを作成または設定する作業を完了する必要があります。前提条件を満たしてから、データベースのインストールを続行します。

- ◆ [34 ページの「外部データベースのインストールの前提条件」](#)
- ◆ [36 ページの「外部 ZENworks データベースインストールの実行」](#)

外部データベースのインストールの前提条件

該当するセクションを確認してください。

- ◆ [34 ページの「リモート OEM Sybase の前提条件」](#)
- ◆ [34 ページの「リモート Sybase SQL Anywhere の前提条件」](#)
- ◆ [34 ページの「Microsoft SQL Server の前提条件」](#)
- ◆ [35 ページの「Oracle の前提条件」](#)

リモート OEM Sybase の前提条件

ZENworks 10 Asset Management をインストールして管理ゾーンを作成する前に、まずリモートデータベースサーバにリモート OEM Sybase データベースをインストールし、データベースをホストするプライマリサーバのインストール中に適切に設定できるようにする必要があります。

リモート Sybase SQL Anywhere の前提条件

Sybase SQL Anywhere データベースを ZENworks 10 Asset Management にインストールして設定する前に、次の前提条件を満たしていることを確認してください。

- ◆ Sybase SQL Anywhere データベースをインストールして設定し、ZENworks 10 Asset Management をプライマリサーバにインストールしたときに更新できるようにします。
- ◆ データベースユーザが、データベースサーバ上のテーブルを作成および変更するための読み込み / 書き込み権限を持っていることを確認してください。

Microsoft SQL Server の前提条件

Microsoft SQL Anywhere データベースを ZENworks 10 Asset Management にインストールして設定する前に、Microsoft SQL Server ソフトウェアがデータベースサーバ上にインストールされ、ZENworks インストールプログラムで新しい Microsoft SQL データベースを作成できることを確認します。Microsoft SQL Server ソフトウェアのインストール手順については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

Oracle の前提条件

ZENworks データベースの Oracle へのインストール時に、新しいユーザスキーマを作成するか、ネットワークのサーバに存在する既存のスキーマを指定するか、選択できます。

- ◆ **新しいユーザスキーマの作成** : 新しいユーザスキーマを作成するよう選択する場合、次の要件が満たされていることを確認してください。
 - ◆ データベース管理者のアカウント情報を把握している必要があります。
 - ◆ Oracle アクセスユーザに関連付けるためには、テーブルスペースがすでに存在している必要があります。
 - ◆ テーブルスペースには ZENworks データベーススキーマを作成および保存するのに十分な容量が必要です。テーブルスペースは、中にデータがない状態でも ZENworks データベーススキーマを作成するのに最低 100MB 必要です。
- ◆ **既存のユーザスキーマの使用** : 次のシナリオで、ネットワーク内のサーバにある既存の Oracle ユーザスキーマをインストールできます。
 - ◆ データベース管理者は必要な権限を使用してユーザスキーマを作成し、ユーザはデータベース管理者からそのユーザスキーマのアカウント情報を受け取ります。この場合、既存の Oracle ユーザスキーマにインストールするのに、データベース管理者のアカウント情報は必要ありません。
 - ◆ Oracle データベースでユーザスキーマを作成し、ZENworks Asset Management のインストール時に使用できるよう選択します。

既存のユーザスキーマを作成するよう選択する場合は、次の要件が満たされていることを確認してください。

- ◆ テーブルスペースには ZENworks データベーススキーマを作成および保存するのに十分な容量があることを確認します。テーブルスペースは、中にデータがない状態でも ZENworks データベーススキーマを作成するのに最低 100MB 必要です。
- ◆ ユーザスキーマのクォータが、インストール中に設定を予定しているテーブルスペースで無制限に設定されていることを確認します。
- ◆ ユーザスキーマは、データベースを作成するため次の権限を持っていることを確認します。

```
CREATE SESSION
CREATE_TABLE
CREATE_VIEW
CREATE_PROCEDURE
CREATE_SEQUENCE
CREATE_TRIGGER
```

重要 : Oracle データベースの場合、データベースが共有サーバを使用するように設定するか、専用サーバプロセスを使用するように設定するかによって、パフォーマンスに影響します。ZENworks プライマリサーバにはそれぞれデータベース接続プールが設定されており、そのサイズは ZENworks システム負荷によって変動します。このプールは、負荷のピーク時には、プライマリサーバごとに最大 100 の同時データベース接続まで増加します。Oracle データベースが専用サーバプロセスを使用するよう設定されていると、ゾーン内に複数のプライマリサーバがある場合にデータベースサーバリソース使用量が大幅に増加してパフォーマンスに影響することがあります。この問題が発生した場合は、ZENworks データベースが共有サーバプロセスを使用するように変更することを検討してください。

外部 ZENworks データベースインストールの実行

1 外部データベースをインストールするサーバが **21 ページのセクション 1.4 「データベース要件」** と **34 ページの「外部データベースのインストールの前提条件」** の要件を満たしていることを確認します。

2 データベースインストールプログラムを起動します。

2a 外部データベースをインストールするサーバで、*Novell ZENworks 10 SP2* インストール DVD を挿入します。

DVD を挿入してデータベースインストールプログラムが自動実行された場合は、プログラムを終了します。

サーバが Windows の場合は、**ステップ 2b** に進みます。サーバが Linux の場合は、**ステップ 2c** にスキップします。

2b Windows の場合は、外部データベースサーバのコマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
DVD_drive:\setup.exe -c
```

または

ZENworks 10 Asset Management がすでにデバイスにインストールされており、外部データベースインストールプログラムを使用してデバイスを ZENworks データベース (同じデバイスまたは別のデバイス上) の別のインスタンスの設定に使用する場合は、次のコマンドを実行します。

```
DVD_drive:\setup.exe -c --zcminstall
```

2c Linux の場合は、外部データベースサーバで次のコマンドを実行します。

```
sh /media/cdrom/setup.sh -c
```

これにより、特に OEM データベースをリモートデータベースにしたい場合には、プライマリサーバのインストール時にはない追加オプションが提供されます。ZENworks データベースを生成する SQL ファイルを表示する、アクセスユーザを作成する、作成コマンド (OEM Sybase のみ) を参照するなどの操作を行うことができます。

または

ZENworks 10 Asset Management がすでにデバイスにインストールされており、外部データベースインストールプログラムを使用してデバイスを ZENworks データベース (同じデバイスまたは別のデバイス上) の別のインスタンスの設定に使用する場合は、次のコマンドを実行します。

```
mounted_DVD_drive/setup.sh -c --zcminstall
```

sh コマンドを使用すると、権限の問題を解決できます。

データベースをインストールする際には、GUI インストールしか使用できません。

3 [ZENworks データベースの選択] ページで、次のいずれかを選択します。

- ◆ **OEM Sybase SQL Anywhere:** デフォルトの ZENworks 用 Sybase 10 データベースをインストールします。これはサービスとして設定され、データベースユーザが作成され、プライマリサーバ用の必要なテーブルが確立されます。

このオプションを選択する場合、プライマリサーバソフトウェアのインストール時にデータベースを正常にインストールするために、-o(または--sybase-oem)パラメータをsetup.exe インストール実行プログラムで使用する必要があります。このパラメータを使用すると、ZENworks が何らかの操作を行う前にデータベースを認証するようにすることができます。

-o パラメータは、Novell ZENworks 10 Asset Management SP2 インストール DVD に収録されている Sybase インストールを使用するときのみ使用してください。

また、プライマリサーバのインストール中に [リモート Sybase SQL Anywhere] オプションを選択する必要があります。

- ◆ **Sybase SQL Anywhere:** ZENworks 情報を書き込めるように既存の Sybase データベースを設定します。
- ◆ **Microsoft SQL Server:** ZENworks データベースを Microsoft SQL Server 上に作成します。
- ◆ **Oracle:** ZENworks で使用する外部 Oracle 10g データベーススキーマを設定するために使用できるユーザスキーマを指定します。

重要: 外部データベースの場合は、データベースがインストールされたときに、データベースをホストしているサーバは管理ゾーン内のそれぞれのプライマリサーバと時間同期している必要があります。

- 4 [次へ] をクリックします。
- 5 インストール中に次の情報を参照し、知っている必要があるインストールデータの詳細を確認してください。[ヘルプ] ボタンをクリックして、同様の情報を得ることもできます。
 - ◆ 37 ページの「OEM Sybase SQL Anywhere データベースのインストール情報」
 - ◆ 38 ページの「Sybase SQL Anywhere データベースのインストール情報」
 - ◆ 39 ページの「MS SQL データベースのインストール情報」
 - ◆ 40 ページの「Oracle データベースのインストール情報」
- 6 42 ページのセクション 2.4 「インストールの実行」に進んでください。

OEM Sybase SQL Anywhere データベースのインストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

表 2-1 OEM Sybase SQL Anywhere の情報

インストール情報	説明
[Sybase データベースのインストール]	Sybase SQL Anywhere データベースソフトウェアの OEM コピーをインストールしたいパスを指定します。ターゲット Windows サーバ上で、現在サーバにマップされているドライブのみを利用できます。 デフォルトパスは ドライブ名 :novell\zenworks です。パスは変更できます。インストールプログラムは Sybase のインストール用の \novell\zenworks ディレクトリを作成します。
[Sybase サーバ設定]	Sybase SQL Anywhere データベースサーバで使用されるポートを指定します。デフォルトでは、2638 です。競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。

インストール情報	説明
[Sybase アクセス設定]	<p>一部の情報にはデフォルトが提供され、必要に応じて変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ データベース名 : 作成するデータベースの名前を指定します。 ◆ ユーザ名 : データベースにアクセスできる新規ユーザの名前を指定します。 ◆ パスワード : データベースのアクセスに使用するパスワードを指定します。 ◆ データベースサーバ名 : Sybase SQL Anywhere データベースサーバの名前を指定します。
[データベースファイルの場所]	<p>ZENworks Sybase データベースファイルを作成したいパスを指定します。デフォルトで、インストールプログラムは Sybase のインストール用に <code>ドライブ:\novell\zenworks</code> ディレクトリを作成し、これは変更できます。<code>\database</code> ディレクトリがデフォルトディレクトリに付加されます。</p> <p>例 - デフォルトパスは <code>ドライブ:\novell\zenworks\database</code> です。</p>
[データベース情報の確認]	<p>データベース設定情報を確認します。</p> <p>データベースドライバ情報は ZENworks データベースインストーラで自動的に検出されます。</p>
[SQL スクリプトの確認]	<p>実行される SQL スクリプトをデータベース作成時に確認します。</p>
[データベース作成コマンドの確認]	<p>データベース作成に使用されるデータベースコマンドを確認します。</p>

Sybase SQL Anywhere データベースのインストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

表 2-2 Sybase SQL Anywhere の情報

インストール情報	説明
[Sybase サーバ設定]	<ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバ名 : DNS 名を使用して署名された証明書と同期するために、サーバは IP アドレスではなく DNS 名で識別することを推奨します。 <hr/> <p>重要 : データベースサーバの IP アドレスまたは DNS 名を後から変更する場合は、企業 DNS サーバがこの変更に伴って更新され、データベースサーバ用の DNS が同期していることを確認します。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ポート : Sybase SQL Anywhere データベースサーバで使用されるポートを指定します。デフォルトでは、2638 です。競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。

インストール情報	説明
[Sybase アクセス設定]	<p>このサーバには Sybase SQL Anywhere データベースがインストールされている必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ データベース名 : 既存のデータベース名を指定します。 ◆ ユーザ名 : データベースを変更できるユーザを指定します。ユーザはデータベースを変更するための読み込み / 書き込み権限を持っている必要があります。 ◆ パスワード : データベースへの読み取り / 書き込み権限を持っている既存のユーザのパスワードを指定します。 ◆ データベースサーバ名 : Sybase SQL Anywhere データベースサーバの名前を指定します。
[データベース情報の確認]	<p>データベース設定情報を確認します。</p> <p>データベースドライバ情報は ZENworks データベースインストーラで自動的に検出されます。</p>
[SQL スクリプトの確認]	<p>実行される SQL スクリプトをデータベース作成時に確認します。</p>
[データベース作成コマンドの確認]	<p>データベース作成に使用されるデータベースコマンドを確認します。</p>

MS SQL データベースのインストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

表 2-3 Microsoft SQL Server データベースの情報

インストール情報	説明
[データベースの選択]	<p>新規データベースを作成するか、既存データベースに接続するか、選択できません。</p>

インストール情報	説明
[外部データベースサーバの設定]	<p>データベースサーバには MS SQL データベースがインストールされている必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバアドレス : DNS 名を使用して署名された証明書と同期するために、サーバは IP アドレスではなく DNS 名で識別することを推奨します。 <hr/> <p>重要 : データベースサーバの IP アドレスまたは DNS 名を後から変更する場合は、企業 DNS サーバがこの変更に伴って更新され、データベースサーバ用の DNS が同期していることを確認します。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ポート : MS SQL データベースサーバで使用されるポートを指定します。デフォルトでは、1433 です。競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。 ◆ 名前付きインスタンス : これは既存の ZENworks データベースをホストする SQL サーバインスタンスの名前です。名前付きインスタンスは、デフォルトである mssqlserver 以外を使用する場合に指定する必要があります。 ◆ データベース名 : ZENworks データベースをホストする既存の MS SQL データベースの名前を指定します。このオプションは、既存データベースについてのみ利用できます。 ◆ ユーザ名 : データベースを変更できるユーザを指定します。ユーザはデータベースを変更するための読み込み / 書き込み権限を持っている必要があります。 <p>Windows 認証の場合は、現在のデバイスまたはドメイン内のユーザ名を提供します。SQL 認証の場合は、有効な SQL ユーザと一致するユーザ名を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ パスワード : [ユーザ名] フィールドで指定したユーザのパスワードを入力します。 ◆ ドメイン : SQL Server のインストールに SQL 認証を使用したか、Windows 認証を使用したか、または両方を使用したかを知っていることが重要です。SQL Server オプションと一致するオプションを選択してください。それ以外の場合は認証が失敗します。 <p>Windows 認証を使用している場合は、[ユーザ名] フィールド内で指定したユーザが存在する Windows ドメインを指定します。Windows ドメインを使用していない場合は、サーバの短い名前を指定します。</p>
[外部データベースの設定] > [データベースの場所] (新規データベースの場合にのみ該当)	<p>SQL サーバ上の既存の MS SQL データベースファイルのパスを指定します。デフォルトは、c:\database です。データベースをホストするデバイス上にパスが存在することを確認します。</p>
[データベース情報の確認]	<p>データベース設定情報を確認します。</p>
[SQL スクリプトの確認]	<p>実行される SQL スクリプトをデータベース作成時に確認します。スクリプトは表示のみが可能です。</p>

Oracle データベースのインストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

表 2-4 Oracle データベースの情報

インストール情報	説明
[Oracle ユーザスキーマオプション]	<p>新しいユーザスキーマを作成するか、またはネットワーク内のサーバ上に存在する既存のスキーマを指定できます。ユーザスキーマを使用して、ZENworks で使用する外部 Oracle 10g データベーススキーマを設定できます。</p> <p>新規ユーザスキーマを作成している場合、Oracle アクセスユーザに関連付けるためにテーブルスペースが存在している必要があります。既存のユーザスキーマで、権限とテーブルスペースが設定されている必要があります。</p>
[Oracle サーバ情報]	<p>データベースサーバには Oracle データベースがインストールされている必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバのアドレス : DNS 名を使用して署名された証明書と同期するために、サーバは IP アドレスではなく DNS 名で識別することを推奨します。 <hr/> <p>重要 : データベースサーバの IP アドレスまたは DNS 名を後から変更する場合は、企業 DNS サーバがこの変更に伴って更新され、データベースサーバ用の DNS が同期していることを確認します。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ポート : データベースサーバによって使用されるポートを指定します。デフォルトでは、1521 です。競合する場合はデフォルトのポート番号を変更します。 ◆ サービス名 : 新規ユーザスキーマの場合、ユーザスキーマが作成されるインスタンス名 (SID) を指定します。既存のユーザスキーマでは、ユーザスキーマが作成されているインスタンス名 (SID) を指定します。
[Oracle 管理者] (新規ユーザスキーマのみに該当)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ユーザ名 : データベースを変更できるユーザを指定します。ユーザはデータベースを変更するための読み込み / 書き込み権限を持っている必要があります。 ◆ パスワード : データベースのアクセスに使用するパスワードを指定します。
[Oracle アクセスユーザ]	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ユーザ名 : 新規ユーザスキーマでは、名前を指定します。既存のユーザスキーマでは、Oracle データベースにすでに存在するユーザスキーマの名前を指定します。 ◆ パスワード : 新規ユーザスキーマでは、データベースのアクセスに使用するパスワードを指定します。既存のユーザスキーマでは、Oracle データベースにすでに存在するユーザスキーマへのアクセスに使用するパスワードを指定します。 ◆ デフォルトテーブルスペース : 新規ユーザスキーマでは、ユーザスキーマを作成するテーブルスペースの名前を指定します。既存のユーザスキーマでは、[ユーザ名] フィールドで指定されたユーザスキーマを持つテーブルスペースを指定します。 <p>デフォルトでは、USERS です。</p>
[データベース情報の確認]	<p>データベース設定情報を確認します。</p>
[SQL スクリプトの確認]	<p>実行される SQL スクリプトをデータベース作成時に確認します。</p>

2.4 インストールの実行

1 次のいずれかの方法で、ZENworks のインストールプログラムを起動します。

- ◆ グラフィカルユーザインタフェース (GUI) インストール

1. インストールサーバで *Novell ZENworks 10 Asset Management SP2* インストール DVD を挿入します。

Windows の場合は、言語を選択するインストールページが表示されます。DVD の挿入後に自動的に表示されない場合は、DVD のルートから `setup.exe` を実行します。

Linux の場合は、DVD をマウントしてから、`sh /media/cdrom/setup.sh` を実行します。sh コマンドを使用して、権限の問題を解決できます。

2. 外部 OEM Sybase データベースをインストールした場合 (33 ページのセクション 2.3.4 「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照)、このプライマリサーバのインストール中にデータベースが適切に更新されるようにするために、次のパラメータを適用して手動で実行可能ファイルを実行する必要があります。

```
DVD_drive\setup.exe -o
```

3. 次のステップ 2 に進みます。

- ◆ コマンドラインインストール (Linux のみ)

1. インストールサーバで *Novell ZENworks 10 Asset Management SP2* インストール DVD を挿入します。
2. DVD をマウントします。
3. コマンドラインインストールを開始するために、次の操作を実行します。

- a. すべてのユーザ (「その他」を含む) が読み込みアクセスと実行アクセスを持っているディレクトリに DVD をマウントするか、DVD のファイルをコピーします。

このディレクトリには、`/root` またはその下層のディレクトリは使用できません。

DVD のファイルをコピーした場合は、すべてのユーザ (「その他」を含む) がコピー先ディレクトリに対して引き続き読み込みアクセスと実行アクセスを持っていることを確認してください。

- b. 次のコマンドを実行します。

```
sh /mount_location/setup.sh -e
```

インストール引数の詳細については、67 ページの付録 A 「インストール実行可能引数」を参照してください。

4. 次のステップ 2 に進みます。

- ◆ サイレントインストール

レスポンスファイルを使用してインストールするには、52 ページのセクション 2.5 「無干渉インストールの実行」を参照してください。

- 2 インストール中にインストールに必要なデータの詳細を 44 ページの i 2-5§ 「インストール情報」内の情報で参照してください。

GUI インストールを使用している場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックして同様の情報を参照することができます。

コマンドラインの場合は、「back」と入力して< Enter >を押すと、前のインストールオプションに戻って変更することができます。

3 Windows デバイスで次のいずれかを実行します：

- 自動的に再起動するよう選択した場合 (インストール時に [はい、システムを再起動しません] オプションを選択した場合。52 ページの「再起動 (再起動しない)」を参照してください)、起動プロセスが完了してサービスが起動したら、ステップ 4 に進みます。
- 手で再起動するよう選択した場合 (インストール時に [いいえ、システムを後で手で再起動しません] オプションを選択した場合。52 ページの「再起動 (再起動しない)」を参照してください)、インストールが完了してサービスが起動するまで待つから、ステップ 4 で確認する必要があります。

注： Windows でも Linux でも、インストール処理が完了した部分のデータベースは更新され、PRU はダウンロードされてインストールされます。処理中はいずれも CPU の使用率が高くなります。このため、サービスの開始が遅くなり、ZENworks コントロールセンターを開くのに時間もかかります。

4 インストールが完了してサーバが再起動したら、次の操作を行って、ZENworks 10 Asset Management SP2 が実行されていることを確認します。

• ZCC を実行する

ZCC が自動的に開始されていない場合は、Web ブラウザを使用して次の URL から ZCC を開きます。

`https://DNS_name_or_IP_address_of_Primary_Server/zenworks`

これは ZENworks をインストールしたばかりのサーバか、または**正規のワークステーション**から実行できます。

ZCC が開かず、DNS を使用している場合、DNS が正しく設定されていることを確認します。サーバで ZCC を開くためには、DNS が正しく動作する必要があります。DNS が正しく動作するよう再設定した後、デスクトップアイコンから ZCC にアクセスできるはずです。

Oracle 10g データベースの場合、ユーザソースのログイン名も含め、管理者名の**大文字と小文字**が区別されます。インストール中に自動作成されたデフォルトの ZENworks 管理者アカウントでは最初の文字に大文字を使用しているため、ZENworks コントロールセンターにログインするときには Administrator と入力する必要があります。

• GUI を使用して Windows サービスをチェックする

サーバで、[スタート] をクリックし、[管理ツール]、[サービス] の順に選択して [Novell ZENworks Loader] および [Novell ZENworks Server] サービスの状態を確認します。

実行されていない場合は、ZENworks サービスを開始します。[Novell ZENworks Server] サービスを右クリックして [開始] を選択し、[Novell ZENworks Loader] サービスを右クリックして [開始] をクリックします。

[再起動] オプションは、すでに実行されているすべての関連するサービスを停止し、Novell ZENworks Loader を含め、正しい順番で開始します。

• 設定コマンドを使用して Linux サービスをチェックする

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。
サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c Start
```

◆ 特定のサービスのコマンドを使用して Linux サービスをチェックする

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver status
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader status
```

サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを実行して ZENworks サービスを開始します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver start
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader start
```

- 5 (オプション) このサーバでの ZENworks の実行方法に対して特定の設定パラメータを設定する場合は、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「[Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定変更](#)」を参照してください。
- 6 次のいずれか該当するものを実行して[ステップ 7](#)に進みます。
 - ◆ 使用したばかりの方法と同じインストール方法を使用して管理ゾーン用の別のプライマリサーバを作成するには、[ステップ 1](#)に戻ります。
 - ◆ 他のサーバ上で無干渉のインストールを実行するために[レスポンスファイル](#)を作成した場合は、[54 ページのセクション 2.5.2 「インストールの実行」](#)に進みます。
- 7 [56 ページのセクション 2.6 「インストール後のタスク」](#)に進んでください。

2.4.1 インストール情報

必要な情報がインストールフローの順番で一覧にされています。

表 2-5 インストール情報

インストール情報	説明
インストールパス (Windows のみ)	デフォルトは「%ProgramFiles%」です。このパスはサーバ上で現在利用可能な任意のパスに変更することができます。インストールプログラムは ZENworks ソフトウェアファイルのインストール用の NovellZENworks ディレクトリを作成します。 Linux の場合は、いくつかの固定インストールパスが使用されます。 <pre>/opt/novell/zenworks/ /etc/opt/novell/zenworks /var/opt/novell/zenworks /var/opt/novell/log/zenworks/</pre> Linux サーバ上のディスク容量に関しては、/var/opt ディレクトリにデータベースおよびコンテンツリポジトリが常駐しています。十分な大きさのパーティションに配置されていることを確認してください。

インストール情報	説明
レスポンスファイルパス (オプション)	<p>インストール実行可能ファイルを <code>-s</code> パラメータを指定して介した場合は、ファイルのパスを指定する必要があります。デフォルトパスは <code>C:\Documents and Settings\Administrator\</code> で、現在のサーバ上で利用可能な任意のパスに変更することができます。</p>
前提条件	<p>レスポンスファイルを作成するためにプログラムを実行するときにはプライマリサーバソフトウェアはインストールされません。レスポンスファイルの識別と作成に必要なインストールページを表示するだけです。</p> <p>必要な前提条件がインストールされていない場合は、インストールを続行できません。満たされていない要件は、GUI に表示されるか、またはコマンドラインに一覧表示されます。詳細については、9 ページのセクション 1.1 「プライマリサーバ要件」 を参照してください。</p>
[管理ゾーン]	<p>.NET 前提条件が満たされていない場合は、説明内の [ZENworks] リンクをクリックして ZENworks にバンドルされているランタイムバージョンをインストールすることができます。 .NET がインストールされた後に、ZENworks のインストールが中断されていた箇所から続行されます。</p> <p>新しいゾーン: ゾーン内の最初のサーバにインストールしている場合は、ZCC にログインするときに使用する管理ゾーン用の名前とゾーンのパスワードを知っている必要があります。</p> <p>ゾーン名は 20 文字までの制限があり固有の名前でなければなりません。ゾーン名に使用できる特殊文字は、<code>- (ハイフン)</code>、<code>_ (アンダースコア)</code>、<code>. (ピリオド)</code> のみです。<code>~`!@#% ^ &*+= () {} [] \ : ; " ' < > , ? / \$</code></p> <p>ゾーン管理者パスワードは 6 文字以上にする必要があります、最大 255 文字に制限されています。パスワードには \$ 文字は 1 回だけ使用できます。</p> <p>デフォルトでは、ログイン名は「administrator」です。インストールの完了後、ZCC を使用して、管理ゾーンへのログインに使用する他の管理者名を追加することができます。</p> <p>2 番目 (または後続) のプライマリサーバのインストール中に、サーバはデフォルトで最初のプライマリサーバが使用したポートを使用します。ポートが 2 番目のプライマリサーバで使用している場合、別のポートを指定するように求められます。指定したポートは、ZCC にアクセスするための URL で使用する必要があるため、記録しておいてください。</p> <p>既存のゾーン: 既存の管理ゾーンにインストールする場合は、次の情報を知っている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ サーバ ID(DNS 名または IP アドレス)。これはゾーン内の既存のプライマリサーバです。DNS 名を使用して署名された証明書を進行中の同期に提供するために、DNS 名を使用することをお勧めします。 ◆ 管理ゾーン内の既存のプライマリサーバによって使用されるポート。プライマリサーバがデフォルト (443) とは異なるポートを使用する場合は、サーバのポートを指定します。 ◆ ZCC にログインするためのユーザ名。デフォルトは「administrator」です。インストールの完了後、ZCC を使用して、管理ゾーンへのログインに使用する他の管理者名を追加することができます。 ◆ 管理者のパスワード。[ユーザ名] フィールド内で指定されている ZENworks 管理ユーザ用の現在のパスワードを指定します。

データベースオプション ZENworks 10 Asset Management では、データベースを設定する必要があります。データベースオプションは最初のサーバがゾーンにインストールされたときにのみ表示されます。ただし、データベースのインストールまたは修復をするために特にインストールプログラムを実行することもできます (33 ページのセクション 2.3.4 「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照)。

次のデータベースオプションがあります。

- ◆ **組み込み Sybase SQL Anywhere:** 組み込みデータベースを現在のサーバに自動的にインストールします。

組み込みデータベースオプションを選択した場合は、これ以上データベースインストールページは表示されません。

- ◆ **リモート Sybase SQL Anywhere:** このデータベースはネットワーク内のサーバにすでに存在している必要があります。現在のサーバに存在していても構いません。

このオプションを選択するには、すでに 34 ページの「リモート Sybase SQL Anywhere の前提条件」のステップに従っている必要があります。

このオプションは、既存のリモート OEM Sybase データベースへのインストールにも使用できます。

- ◆ **Microsoft SQL Server:** 新しい SQL データベースを作成するか、またはネットワーク内のサーバ上に存在する既存のデータベースを指定できます。現在のサーバに存在していても構いません。

この時点で新しい SQL データベースを作成しても、34 ページの「Microsoft SQL Server の前提条件」のステップと同じ結果になります。

- ◆ **Oracle:** ZENworks で使用する外部 Oracle 10g データベーススキーマを設定するために使用できるユーザスキーマを指定します。

新しいユーザスキーマを作成するか、またはネットワーク内のサーバ上に存在する既存のスキーマを指定できます。

このオプションを選択するには、すでに 35 ページの「Oracle の前提条件」のステップに従っている必要があります。

重要: 外部データベースの場合は、データベースをホストしているサーバは管理ゾーン内のそれぞれのプライマリサーバと時間同期している必要があります。

データベース情報 外部データベースオプション ([リモート Sybase SQL Anywhere]、[Microsoft SQL Server]、および [Oracle]) の場合は、次に示す情報を知っておく必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。

- ◆ **すべてのデータベース** : データベースサーバには、Sybase SQL Anywhere、Microsoft SQL、または Oracle データベースがインストールされている必要があります。
 - ◆ サーバ名。DNS 名を使用して署名された証明書と同期するために、サーバは IP アドレスではなく DNS 名で識別することを推奨します。

重要 : データベースサーバの IP アドレスまたは DNS 名を後から変更する場合は、企業 DNS サーバがこの変更に伴って更新され、データベースサーバ用の DNS が同期していることを確認します。

- ◆ データベースサーバで使用されるポート :
ポート 2638 は Sybase SQL Anywhere のデフォルトポートで、ポート 1433 は Microsoft SQL Server のデフォルトポートです。
衝突がある場合はデフォルトのポート番号を変更します。
 - ◆ **(オプション) SQL Server のみ** : 名前付きインスタンス。既存の ZENworks データベースをホストする SQL サーバインスタンスの名前。名前付きインスタンスは、デフォルトである mssqlserver 以外を使用する場合に指定する必要があります。
 - ◆ **Oracle のみ** : デフォルトのテーブルスペース。これは、データベースを作成するテーブルスペースの名前です。デフォルトでは、USERS です。
 - ◆ **新しいデータベース** :
 - ◆ データベース管理者 ([ユーザ名] フィールド) は、データベースに対して必要な操作を正常に実行するために読み取り / 書き込み権限を持っている必要があります。
 - ◆ 管理者のデータベースパスワード。
 - ◆ **SQL Server または新しいデータベース** :
 - ◆ Windows 認証を使用している場合は、[ユーザ名] フィールド内で指定したユーザが存在する Windows ドメインを指定します。Windows ドメインを使用していない場合は、サーバの短い名前を指定します。
 - ◆ Windows または SQL Server 認証のどちらを使用するか。Windows 認証の場合は、現在のデバイスまたはドメイン内のユーザに対するアカウント情報を提供します。SQL 認証の場合は、有効な SQL ユーザに合致するアカウント情報を提供します。
- SQL Server のインストールに SQL 認証を使用したか、Windows 認証を使用したか、または両方を使用したかを知ることが重要です。SQL Server オプションと一致するオプションを選択してください。それ以外の場合は認証が失敗します。
-

インストール情報 説明

データベースアクセス 外部データベースオプション ([リモート Sybase SQL Anywhere]、[Microsoft SQL Server]、および [Oracle]) の場合は、次に示す情報を知っておく必要があります。デフォルトでいくつかの情報が提供されていますが、必要に応じて変更できます。

- ◆ **すべてのデータベース**：このサーバには、Sybase SQL Anywhere、Microsoft SQL、または Oracle データベースがインストールされている必要があります。
 - ◆ データベース名 . zenworks_MY_ZONE を希望のデータベース名または既存のデータベース名と置き換えます。
 - ◆ データベースユーザ名。このユーザはデータベースを変更するための読み込み / 書き込み権限を持っている必要があります。

Windows 認証も選択した場合は、新しい SQL データベースの作成時に、指定したユーザがすでに存在している必要があります。ユーザは SQL Server へのログインアクセス権と作成された ZENworks データベースへの読み取り / 書き込みアクセス権を付与されます。

既存のデータベースの場合は、データベースに対する十分な権限を持つユーザを指定します。
 - ◆ データベースパスワード。新しいデータベースでは、SQL 認証が選択されている場合は、このパスワードは自動的に生成されます。既存のデータベースでは、データベースへの読み取り / 書き込み権を持っている既存のユーザのパスワードを指定します。
- ◆ **Sybase データベースのみ**：Sybase SQL Anywhere データベースサーバの名前。
- ◆ **Oracle データベースのみ**：データベースを作成するテーブルスペースの名前。デフォルトでは、USERS です。
- ◆ **SQL データベースのみ**：
 - ◆ Windows 認証を使用している場合は、[ユーザ名] フィールド内で指定したユーザが存在する Windows ドメインを指定します。Windows ドメインを使用していない場合は、サーバの短い名前を指定します。
 - ◆ Windows または SQL Server 認証のどちらを使用するか。Windows 認証の場合は、現在のデバイスまたはドメイン内のユーザに対するアカウント情報を提供します。SQL 認証の場合は、有効な SQL ユーザに合致するアカウント情報を提供します。

SQL Server のインストールに SQL 認証を使用したか、Windows 認証を使用したか、または両方を使用したかを知ることが重要です。SQL Server オプションと一致するオプションを選択してください。それ以外の場合は認証が失敗します。

SSL 設定 (管理ゾーンにインストールされている最初のサーバ用にのみ表示) SSL 通信を有効にするため、SSL 証明書を ZENworks サーバに追加する必要があります。内部または外部のどちらの認証局 (CA) を使用するかを選択します。

管理ゾーンへのプライマリサーバの後続のインストールでは、最初のサーバのインストールによって確立された CA が使用されます。

重要：ZENworks 10 Asset Management をインストールした後で、CA タイプを変更することはできません。

[デフォルトの復元] ボタンはこのページに最初にアクセスしたときに表示されるパスを復元します。

インストール情報 説明

署名 SSL 証明書と秘密鍵 信頼済み CA 署名証明書および秘密鍵を入力するには、[**選択**] をクリックして証明書および鍵ファイルをブラウザして選択するか、またはこのサーバ用に使用される署名証明書 ([**証明 SSL 証明書**])、および署名証明書に関連付けられている秘密鍵 ([**秘密鍵**]) へのパスを指定します。

ゾーンへのプライマリサーバの後続のインストールでは、最初のサーバのインストールによってゾーン用に確立された CA が使用されます。

Linux サーバまたは Windows サーバへのインストール時に選択すべき外部証明書を作成する方法の詳細については、[33 ページのセクション 2.3.3 「外部認証局の作成」](#)を参照してください。

サイレントインストールを使用してサーバへインストールするための外部証明書を作成する方法の詳細については、[53 ページのセクション 2.5.1 「レスポンスファイルの作成」](#)を参照してください。

ルート証明書 (オプション) 信頼済み CA ルート証明書を入力するには、[**選択**] をクリックして証明書をブラウザして選択するか、または CA の公的 X.509 証明書 ([**CA ルート証明書**]) へのパスを指定します。

ライセンスキー (ZENworks Configuration Management、ZENworks Asset Management、ZENworks Asset Inventory 用) デフォルトで、ページにリストされたすべての ZENworks 10 製品の [**評価**] チェックボックスが選択されています。次の製品が付属しています。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP2
- ◆ ZENworks 10 Asset Management SP2
- ◆ ZENworks 10 Asset Inventory for UNIX/Linux SP2

デフォルト設定を維持する場合は、すべての製品が 60 日のトライアルライセンス付きでインストールされます。

さらに、次のいずれを行うこともできます。

- ◆ **製品の正式ライセンス付きバージョンをインストールする** : 製品を購入した際に取得したライセンスキーを指定します。ライセンスキーを指定すると、[**評価**] チェックボックスは自動的にオフになります。
- ◆ **インストールする製品を選択する** : 製品の正式ライセンスバージョンも評価バージョンもインストールしない場合は、製品の [**評価**] チェックボックスの選択を手動で解除し、その製品のライセンスキーを指定しないでください。ただし、次の製品のいずれかのライセンスバージョンか評価バージョンをインストールする必要があります。
 - ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP2
 - ◆ ZENworks 10 Asset Management SP2

さらに、ZENworks 10 Asset Inventory for UNIX/Linux SP2 の評価バージョンまたはライセンスバージョンをインストールできます。

ZENworks 製品 (ZENworks 10 Configuration Management SP2 または ZENworks 10 Asset Management SP2) のいずれか 1 つをインストールすると、他の ZENworks 製品は自動的にインストールされます。ただし、非アクティブ化された状態になっています。後から ZENworks コントロールセンターでアクティブ化することもできます。製品のアクティブ化についての詳細は、[『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』](#)の「[ZENworks 製品のライセンス登録](#)」を参照してください。

インストール情報	説明
ZENworks Patch Management のライセンスキー	<p>ZENworks 10 Patch Management SP2 は自動的にインストールされます。ただし、次の条件を満たすときのみ、製品のパッチのダウンロードがアクティブ化されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks 10 Configuration Management SP2 がライセンスまたは評価モードでアクティブな状態である。 ◆ 別途購入が必要なパッチサブスクリプションライセンスキーが指定されている。 <p>サブスクリプションサービスは、後から ZENworks コントロールセンターでアクティブ化することもできます。詳細については、『ZENworks 製品のライセンス登録』の「ZENworks 10 Management システム管理リファレンス」を参照してください。</p> <p>ライセンスキーの指定では、追加で会社名と電子メールアドレスも指定する必要があります。</p> <p>ZENworks 10 Patch Management SP2 をインストールしない場合は、[アクティブ化] チェックボックスの選択を手動で解除し、その製品のライセンスキーは指定しないでください。製品は自動的にインストールされますが、非アクティブ化されません。</p>
インストール前の概要	<p>GUI インストール: この時点までに入力された情報を変更するには、[前へ] をクリックします。[インストール] をクリックした後に、ファイルのインストールが開始されます。インストール中に、[キャンセル] をクリックするとインストールを停止できます。その時点までにインストールされたファイルがサーバに残ります。</p> <p>コマンドラインインストール: この時点までに入力した情報を変更する場合は、必要に応じて何度でも「back」と入力して < Enter > を押します。コマンドを再び前に進めるときには、< Enter > を押して前に行った決定を確定します。</p>
インストールが完了しました(ロールバックオプション)	<p>インストールエラーが発生した場合は、このページはこの時点で表示されます。それ以外の場合は、[インストール後のアクション] ページの後に表示されます。</p> <p>インストール回復: GUI およびコマンドラインインストールの両方で、重大なインストールエラーが発生した場合は、インストールをロールバックしてサーバを直前の状態に戻すことができます。このオプションは、別のインストールページで提供されています。それ以外の場合は、次の 2 つのオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 直前のインストールが途中で再びインストールする場合は、キャンセルしたインストールの進捗状況によってインストールをリセットするオプションが表示されます。リセットを選択した場合は、キャンセルされたインストール中に行われた設定が上書きされます。 ◆ 正常に完了されたインストールを元に戻すには、57 ページの第 3 章「ZENworks 10 Asset Management SP2 のアンインストール」 の指示に従ってください。 <p>重大なインストールエラーが発生した場合は、[ロールバック] を選択してサーバを直前の状態に戻すことができます。インストールプログラムの終了時に、サーバは再起動されません。ただし、インストールを完了するには、サーバを再起動する必要があります。</p> <p>インストールを続行するか、それともロールバックするかを決定するには、エラーが一覧にされたログファイルを確認して、自分が行う操作にとってインストールエラーが重大かどうかを判別します。続行を選択した場合は、サーバを再起動してインストールプロセスを完了した後にログに記載されている問題を解決します。</p> <p>GUI インストールでログファイルにアクセスするには、[ログ表示] をクリックします。コマンドラインインストールでは、ログファイルへのパスが表示されます。</p>

インストール情報 説明

インストール後の操作 ソフトウェアのインストールが正常に完了した後に実行するアクションを選択するためのオプションが用意されています。

- ◆ GUI インストールの場合は、次に示すオプションのページが表示されます。いくつかの項目はデフォルトで選択されています。オプションを選択したり選択解除したりするには、チェックボックスをクリックします。次に [次へ] をクリックして進みます。
- ◆ コマンドラインインストールでは、オプションはオプション番号付きで一覧表示されます。オプションを選択したり選択解除したりするには、番号を入力して選択状態を切り替えます。選択項目を設定した後は、番号を入力せずに < Enter > を押して進みます。

次の利用可能なアクションから選択します。

- ◆ **ZENworks コントロールセンターを実行する** : (GUI インストールのみ) 再起動した後に (Windows のみ)、または、手動で再起動を選択した場合あるいは Linux サーバにインストールした場合は即時に ZCC をデフォルトの Web ブラウザ上で自動的に開きます。GUI なしの Linux インストールの場合は、GUI 有効デバイスを使用して ZCC を実行する必要があります。

Oracle 10g データベースでは、管理者名は大文字と小文字が区別されます。インストール時に自動的に作成されたデフォルトの ZENworks 管理者アカウントは、最初の文字に大文字を使用しています。ZENworks コントロールセンターにログインするには、「Administrator」と入力する必要があります。

- ◆ **デスクトップにある ZENworks コントロールセンターにショートカットを置く** : (Windows のみ) デスクトップにショートカットを配置します。
- ◆ **[スタートメニュー] に ZENworks コントロールセンターへのショートカットを配置する** : (Windows のみ) スタートメニューにショートカットを配置します。
- ◆ **Readme ファイルを表示する** : GUI インストールの場合、再起動後 (Windows のみ)、または手動で再起動するよう選択した場合あるいは Linux サーバにインストールした場合はただちに、ZENworks 10 Asset Readme をデフォルトブラウザで開きます。Linux コマンドラインインストールの場合は、Readme への URL が一覧表示されます。
- ◆ **インストールログを表示する** : 再起動した後、または手動で再起動を選択した場合には即時にデフォルトの XML ビューア (GUI インストール) にインストールログが表示されます。Linux コマンドラインインストールの場合は、情報のみが一覧表示されます。

ZENworks システムステータスユーティリティ インストールプログラムを閉じる前に、ZENworks サービスのハートビートチェックを実行できます。結果はインストールログでポストされます。

インストール情報	説明
再起動 (再起動しない)	<p>正常なインストール時に、すぐに再起動するか後から再起動するかを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ はい、システムを再起動します：このオプションを選択した場合は、プロンプトされたときにサーバにログインします。サーバに初めてログインしたときは、データベースにインベントリデータが入力されるため、数分間かかる場合があります。 ◆ いいえ、システムを後で手動で再起動します：このオプションを選択した場合は、データベースにただちにインベントリデータが入力されます。 <hr/> <p>注：このオプションは Windows デバイスに対してのみ表示されます。</p>
インストールの完了	<p>データベースへの入力プロセスが原因で、再起動中、またはインストールプログラムが閉じた直後 (再起動しないよう選択した場合) は、CPU 使用率が高くなる可能性があります。このデータベースアップデートプロセスのため、サービスの起動や ZENworks コントロールセンターへのアクセスが遅くなる場合があります。</p> <p>通常、再起動直後に行われる Patch Management のダウンロード中も CPU 利用率が高くなる場合があります。</p> <p>ZENworks 10 Asset Management のファイルがすべてインストールされると (選択した場合)、直前に選択したアクションが実行されます。具体的には、次のようなメカニズムがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ (Windows のみ) ZENworks Adaptive Agent アイコンを通知エリアに作成する (システムトレイ) ◆ (Windows のみ) ZCC アイコンをデスクトップまたはスタートメニューに作成する ◆ Readme を表示する ◆ インストールログファイルを表示する ◆ ZCC を開く <hr/> <p>重要：コマンドラインを使用して Linux サーバにインストールした場合や、現在のセッションで zman コマンドを実行する予定の場合は、新しくインストールされた /opt/novell/zenworks/bin ディレクトリをセッションのパスに含める必要があります。PATH 変数をリセットするには、いったんセッションからログアウトしてからログインし直します。</p>

2.5 無干渉インストールの実行

レスポンスファイルを使用して、ZENworks 10 Asset Management SP2 の無干渉インストールを実行することができます。デフォルトのレスポンスファイル (*DVD_drive:\Disk1\InstData\silentinstall.properties* に収録) を編集するか、またはインストールを実行して、基本的なインストール情報が記載された独自のバージョンのレスポンスファイルを作成し、必要に応じてそのコピーを編集できます。

組み込み Sybase データベースの場合、無干渉インストールを実行するには、必ずレスポンスファイルを作成する必要があります。外部データベースを使用するサーバ用に生成されたレスポンスファイルを再利用することはできません。

次の手順を実行してレスポンスファイルを作成し、それを使用して無干渉インストールを実行します。

- ◆ 53 ページのセクション 2.5.1 「レスポンスファイルの作成」
- ◆ 54 ページのセクション 2.5.2 「インストールの実行」

2.5.1 レスポンスファイルの作成

1 次のいずれかの方法を使用して、サーバ上で実行可能な ZENworks 2 Asset Management SP2 インストールを実行します。

- ◆ **Windows GUI:** `DVD_drive:\setup.exe -s`
- ◆ **Linux GUI:** `sh /media/cdrom/setup.sh -s`
sh コマンドを使用すると、権限の問題を解決できます。
- ◆ **Linux コマンドライン:** `sh /media/cdrom/setup.sh -e -s`

インストール引数の詳細については、67 ページの付録 A 「インストール実行可能引数」を参照してください。

2 (オプション) Windows サーバで、[はい、再起動を有効にしてレスポンスファイルを生成します。] オプションがオンになっていることを確認し、サイレントインストールの完了後にサーバが自動的に再起動するようにします。

サイレントインストールではインストール進行状況バーは表示されません。

3 プロンプトが表示されたら、カスタムレスポンスファイルのパスを指定します。

-s 引数をそれだけで使用する場合、インストールプログラムによってレスポンスファイルへのパスがプロンプト表示されます。デフォルトのファイル名は `silentinstall.properties` です。これは後から変更できます (ステップ 4g を参照してください)。

4 管理ゾーンと外部データベースのパスワードをカスタムレスポンスファイルに追加します。

カスタムレスポンスファイルの作成時に入力した外部データベースパスワードはレスポンスファイルに保存されていないため、無干渉インストール時にレスポンスファイルが正しく提供されるようにするには、データベースと管理ゾーンのパスワードをレスポンスファイルの各コピーに追加する必要があります。

オプションで、渡す環境変数を作成して無干渉インストールにパスワードを渡すこともできます。この手順はパスワード情報が保存されているレスポンスファイルに含まれています。

レスポンスファイルを編集しているときに、無干渉インストール用のカスタマイズに必要なその他の変更を実行できます。レスポンスファイルにはさまざまなセクションの手順指示が含まれています。

外部データベースおよび管理ゾーンのパスワードをレスポンスファイルに追加する

4a レスポンスファイルをテキストエディタで開きます。

カスタムレスポンスファイルは、ステップ 3 で指定した場所にあります。

デフォルトのレスポンスファイルを編集する場合、ファイルは `DVD_drive:\Disk1\InstData\silentinstall.properties` にあります。

4b `ADMINISTRATOR_PASSWORD=` を検索してください。

4c `$lax.nl.env.ADMIN_PASSWORD$` を実際のパスワードと置き換えます。

たとえば、パスワードが novell の場合、エント리는次のようになります。

```
ADMINISTRATOR_PASSWORD=novell
```

- 4d (オプション) 外部データベースを使用する場合は、
DATABASE_ADMIN_PASSWORD= という行を検索して、
\$lax.nl.env.ADMIN_PASSWORD\$ を実際のパスワードに置き換えます。
- 4e (オプション) 外部データベースを使用する場合は、
DATABASE_ACCES_PASSWORD= という行を検索して、
\$lax.nl.env.ADMIN_PASSWORD\$ を実際のパスワードに置き換えます。
- 4f ファイルを保存して、エディタを終了します。
- 4g さまざまなインストールシナリオに対していくつでも異なる名前のコピーを作成し、それぞれのコピーを必要に応じて修正してそれぞれを使用されるサーバにコピーします。

既存の管理ゾーンに別のプライマリサーバを追加するには、次の情報をレスポンスファイルに指定する必要があります。

```
PRIMARY_SERVER_ADDRESS=$Primary_Server_IPaddress$  
PRIMARY_SERVER_PORT=$Primary_Server_port$  
PRIMARY_SERVER_CERT=-----BEGIN CERTIFICATE-----  
MIID9DCCLotsOfEncryptedCharactersSja+bY05Y=-----END CERTIFICATE-----
```

ここで

PRIMARY_SERVER_ADDRESS は、セカンダリサーバが既存の管理ゾーンにインストールされている場合の、親プライマリサーバの IP アドレスまたは DNS 名です。

PRIMARY_SERVER_PORT は、セカンダリサーバが既存の管理ゾーンにインストールされている場合の、親プライマリサーバで使用される SSL ポートです。デフォルトでは、443 です。

PRIMARY_SERVER_CERT= は、セカンダリサーバが既存の管理ゾーンにインストールされている場合の、親プライマリサーバで指定した証明書です。証明書は x509 証明書の base64 エンコード文字列フォーマットで、証明書文字列は 1 行で指定する必要があります。これは単に証明書情報の一例です。

- 5 カスタムレスポンスファイルの変更が完了したら、**ステップ 3** で指定したパスから、このファイルを無干渉インストールに使用する各サーバにファイルをコピーします。
- 6 更新されたレスポンスファイルを使用するには、**54 ページのセクション 2.5.2 「インストールの実行」**に進みます。

2.5.2 インストールの実行

- 1 無干渉インストールを実行するインストールサーバで、*Novell ZENworks 10 Asset Management SP2* インストール DVD を挿入します。
 - Windows の場合は、言語を選択するインストールページが表示されたら [キャンセル] をクリックして GUI インストールを終了します。
 - Linux の場合は、インストール DVD をマウントします。
- 2 無干渉インストールを開始するには、コマンドで -f オプションを使用します。
 - Windows の場合は、*DVD_drive:\setup.exe -s -f path_to_file* を実行します。
 - Linux の場合は、*sh /media/cdrom/setup.sh -s -f path_to_file* を実行します。

`path_to_file` には、53 ページのセクション 2.5.1 「レスポンスファイルの作成」で作成したレスポンスファイルのフルパスか、または `silentinstall.properties` ファイル (このファイル名を使用する必要があります) が含まれるディレクトリを指定します。

`sh` コマンドを使用すると、権限の問題を解決できます。

更新されたレスポンスファイルの名前を変更した場合は、新しい名前にパスを含めません。

ファイル名が指定されていない場合、またはパスあるいはファイルが存在しない場合は、`-f` パラメータは無視され、デフォルトのインストール (GUI またはコマンドライン) が無干渉インストールの代わりに実行されます。

- 3 インストールが完了してサーバが再起動したら、次の操作を行って、ZENworks 10 Asset Management が実行されていることを確認します。

- ◆ **ZCC を実行する**

ZCC が自動的に開始されていない場合は、Web ブラウザを使用して次の URL から ZCC を開きます。

```
https:// DNS_name_or_IP_address_of_Primary_Server/zenworks
```

これは ZENworks をインストールしたばかりのサーバか、または**正規のワークステーション**から実行できます。

- ◆ **GUI を使用して Windows サービスをチェックする**

サーバで、[スタート] をクリックし、[管理ツール]、[サービス] の順に選択して [Novell ZENworks Loader] および [Novell ZENworks Server] サービスの状態を確認します。

実行されていない場合は、ZENworks サービスを開始します。[Novell ZENworks Server] サービスを右クリックして [開始] を選択し、[Novell ZENworks Loader] サービスを右クリックして [開始] をクリックします。

[再起動] オプションは、すでに実行されているすべての関連するサービスを停止し、Novell ZENworks Loader を含め、正しい順番で開始します。

- ◆ **コマンドラインを使用して Windows サービスをチェックする**

サーバで [スタート] をクリックし、[ファイル名を指定して実行] をクリックして次のコマンドを実行します。

```
ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure  
-c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure -c Start
```

- ◆ **設定コマンドを使用して Linux サービスをチェックする**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c SystemStatus
```

これによりすべての ZENworks サービスおよびその状態が一覧表示されます。

サービスを実行するには、次のコマンドを実行してください。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure -c Start
```

- ◆ **特定のサービスのコマンドを使用して Linux サービスをチェックする**

サーバで次のコマンドを実行します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver status
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader status
```

サービスが実行されていない場合は、次のコマンドを実行して ZENworks サービスを開始します。

```
/etc/init.d/novell-zenserver start
```

```
/etc/init.d/novell-zenloader start
```

- 4 無干渉インストールを実行して管理ゾーン用に別のプライマリサーバを作成するには、**ステップ 1**に戻ります。それ以外の場合は、**ステップ 5**に進みます。
- 5 インストールが完了したら、**56 ページのセクション 2.6 「インストール後のタスク」**に進みます。

2.6 インストール後のタスク

ZENworks 10 Asset Management SP2 が正常にインストールされたら、次のタスクを実行します。

- ◆ ZENworks データベースを信頼できる方法で定期的にバックアップします。

ZENworks データベースのバックアップ方法については、『**データベース管理**』の「**ZENworks 10 Management システム管理リファレンス**」を参照してください。

- ◆ データベースの資格情報を取得し、書き留めます。

内部データベースの資格情報を取得するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

```
zman dgc -U administrator_name -P administrator_password
```

または

```
zman database-get-credentials -U administrator_name -P administrator_password
```

外部データベースの資格情報を取得するには、データベース管理者にお問合せください。

- ◆ ZENworks サーバを信頼できる方法でバックアップします (1 回だけ実行する必要があります)。

認証局のバックアップ方法については、『**ZENworks 10 Management システム管理リファレンス**』の「**ZENworks サーバのバックアップ**」を参照してください。

- ◆ 認証局を信頼できる方法でバックアップします。

認証局のバックアップ方法については、『**認証局のバックアップ**』の「**ZENworks 10 Management システム管理リファレンス**」を参照してください。

その後、『**ZENworks 10 Asset Management 管理クイックスタート**』に進み、ZENworks 10 Asset Management の詳細な設定と使用方法に関する概念および高度な指示を参照します。

2.7 ZENworks Adaptive Agent のインストール

ZENworks から管理するデバイスにはすべて ZENworks Adaptive Agent が展開されている必要があります。

ZENworks Adaptive Agent の展開の詳細については、『**ZENworks Adaptive Agent の展開**』の「**ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス**」を参照してください。

ZENworks 10 Asset Management SP2 のアンインストール

3

ZENworks ソフトウェアをプライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスからアンインストールできます。ZENworks レポートングサーバがプライマリサーバにインストールされている場合、まず ZENworks レポートングサーバをアンインストールしてから、ZENworks ソフトウェアをアンインストールする必要があります。

組み込み ZENworks データベースを削除するには、管理ゾーンをホストしているプライマリサーバから ZENworks ソフトウェアを削除するのが唯一の方法です。外部データベースを使用している場合、データベースはアンインストール後も変更されません。外部 ZENworks データベースをアンインストールするには、データベース製造業者から提供されている指示を参照してください。

詳細については、次のセクションを参照してください。

- 57 ページのセクション 3.1 「ZENworks ソフトウェアの正しいアンインストール順序」
- 58 ページのセクション 3.2 「Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスのアンインストール」
- 61 ページのセクション 3.3 「Linux プライマリサーバのアンインストール」
- 63 ページのセクション 3.4 「Linux サテライトのアンインストール」

3.1 ZENworks ソフトウェアの正しいアンインストール順序

ZENworks ソフトウェアを管理ゾーンの選択したコンポーネント (プライマリサーバや管理対象デバイスなど) からアンインストールする際、特定の手順に従う必要はありません。


ただし、ZENworks ソフトウェアを管理ゾーンのすべてのコンポーネントから完全に削除する (環境から効果的に ZENworks を削除する) 場合は、インストール順序とは逆の順序でソフトウェアをアンインストールすることを推奨します。つまり、次のようになります。

1. Adaptive Agent を各管理対象デバイスからアンインストールします。
2. データベースのプライマリサーバ以外の、すべてのプライマリサーバをアンインストールします。データベースのプライマリサーバは、組み込み ZENworks データベースをホストしているものです。または、外部 ZENworks データベースを使用している場合は、それがインストールされた最初のプライマリサーバです。

データベースのプライマリサーバの前にすべてのプライマリサーバをアンインストールしないと、データベースのプライマリサーバを削除したときに、これらのプライマリサーバは孤立し、ZENworks コントロールセンターからアンインストールできなくなります。

3. データベースのプライマリサーバをアンインストールします。

3.2 Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスのアンインストール

デバイスを管理対象デバイスに降格する場合、ZENworks ソフトウェアを Windows サテライトからアンインストールする前に、サテライトの役割 (イメージング、コンテンツ、コレクション) がデバイスから削除された後に限定して、アンインストールプログラムを実行する必要があります。役割が Windows 管理対象デバイスから削除されたことを確認するには、通知領域の  アイコンをダブルクリックします。左のナビゲーションペインに [サテライト] ページが表示されなくなります。

Windows プライマリサーバ、サテライト、管理対象デバイスをアンインストールするには、次の手順に従います。

- 1 サーバまたは管理対象デバイスで、次のコマンドを実行します。

```
zenworks_installation_directory\novell\zenworks\bin\zenworksuninstall.exe
```

- 2 アンインストール時には次の表の情報を参照してください。

情報はアンインストールフローの順番でリストされています。

情報	説明
デバイス登録先ゾーンの管理者情報	<p>次の設定を指定します。</p> <p>プライマリサーバ: 次の形式でプライマリサーバの IP アドレスを指定します。</p> <p><code>https:// IP_address または DNS_name_of_the_server:port_number</code></p> <hr/> <p>注: ポート番号は、デフォルトポートを使用していない場合に指定する必要があります。</p> <hr/> <p>ユーザ名: ユーザ名を指定します。デフォルトでは、ユーザ名は administrator です。</p> <p>パスワード: [ユーザ名] フィールドで指定されている ZENworks 管理ユーザのパスワードを指定します。</p> <p>ローカルアンインストールのみ (ゾーン内のデバイスを保持): このオプションは、デバイスから ZENworks ソフトウェアをアンインストールしたい場合にのみ選択します。デバイスは引き続き管理ゾーンに登録されています。</p> <hr/> <p>注: ZENworks Adaptive Agent をアンインストールする権限があることを確認します。ZENworks コントロールセンターでゾーン管理者が [ユーザにエージェントのアンインストールを許可します] オプションを選択しておく必要があります ([環境設定] タブ > [管理ゾーンの設定] > [デバイス管理] > [ZENworks エージェント] > [全般])。</p> <hr/> <p>このオプションは、ZENworks をデバイスから削除するときに管理ゾーンとの接続がない場合、またはデバイスの ZENworks インストールが破損していて再インストールする必要がある場合に役立ちます。</p> <p>[ローカルアンインストールのみ (ゾーン内のデバイスを保持)] オプションを選択した場合は、[次へ] をクリックして [保持するコンポーネント] ページを表示します。</p>

情報	説明
実行する操作	<p>オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ゾーンからデバイスをリタイア：管理対象デバイス上で ZENworks の処理をすべて無効にします。ただし、ZENworks Adaptive Agent はアンインストールされず、デバイスは引き続き管理ゾーンに登録されています。このオプションは管理対象デバイスでのみ使用できます。 ◆ ZENworks エージェントをアンインストールしてデバイスをゾーンから登録解除する ZENworks Adaptive Agent をデバイスからアンインストールし、管理ゾーンからデバイスを削除します。 <hr/> <p>注：ZENworks Adaptive Agent をアンインストールする権限があることを確認します。ZENworks コントロールセンターでゾーン管理者が [ユーザにエージェントのアンインストールを許可します] オプションを選択しておく必要があります ([環境設定] タブ > [管理ゾーンの設定] > [デバイス管理] > [ZENworks エージェント] > [全般])。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks サーバをアンインストールしてデバイスをゾーンから登録解除する ZENworks サーバをデバイスからアンインストールします。 <hr/> <p>警告：このデバイスが管理ゾーンをホストしている場合は、そのゾーンも削除されます。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ◆ デバイスを他のゾーンに転送：管理対象デバイスを既存のゾーンから登録解除して、新しい管理ゾーンに再登録します。このオプションは管理対象デバイスでのみ使用できます。 <p>[デバイスを他のゾーンに転送] オプションを選択すると、[新しいゾーンの情報] ページが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ サテライトサーバの降格：サテライトを管理対象デバイスに降格し、サーバに割り当てられていた役割をすべて削除します。このオプションはサテライトでのみ使用できます。
新しいゾーン情報	<p>このページは、[アクション] ページで [デバイスを他のゾーンに転送] オプションを選択した場合にのみ表示されます。</p> <p>次の設定を指定します。</p> <p>新しいプライマリサーバ：次の形式で新しいプライマリサーバの IP アドレスを指定します。</p> <p><code>https:// IP_address または DNS_name_of_the_server:port_number</code></p> <hr/> <p>注：ポート番号は、デフォルトポートを使用していない場合に指定する必要があります。</p> <hr/> <p>ユーザ名：ユーザ名を指定します。デフォルトでは、ユーザ名は administrator です。</p> <p>パスワード：[ユーザ名] フィールドで指定されている ZENworks 管理ユーザのパスワードを指定します。</p>

情報	説明
保持するコンポーネント	<p>このページは、プライマリサーバをアンインストールするよう選択し、[ローカルアンインストールのみ(ゾーン内のデバイスを保持)] オプションを選択したか、またはイメージングの役割を持つサテライトサーバに対して [サテライトサーバの降格] オプションを選択した場合にのみ表示されます。</p> <p>オプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ZENworks プレエージェント : ZENworks Pre-Agent はデバイスにインストールしたままにしますが、その他の ZENworks ソフトウェアはすべて削除します。デフォルトでは、このオプションは選択されません。ZENworks Pre-Agent はデバイスに残る場合、アドバタイズされた検出要求に応答し、IP ベースの検出がデバイス上で実行された場合、ZENworks Ping 要求にも応答します。 ◆ CASA : CASA ソフトウェアをインストールしたままにします。デフォルトでは、CASA はその他のソフトウェアプログラムで使用される可能性があるためにこのオプションが選択されています。 ◆ ZENworks イメージングファイル : ZENworks イメージングファイルをデバイスに残します。このオプションはデフォルトで選択されています。 <hr/> <p>注 : [サテライトサーバの降格] オプションを選択していて、そのデバイスにイメージングの役割が設定されている場合や、そのデバイスがプライマリサーバの場合、使用可能なオプションは [ZENworks イメージングファイル] だけです。</p>
アンインストールの概要	<p>情報を確認し、必要に応じて [戻る] ボタンをクリックして情報を変更します。</p>
ステータス	<p>アンインストールの状態を表示します。</p> <p>デフォルトでは、[今すぐ再起動] オプションが選択されています。</p> <p>再起動を行うとアンインストールプロセスが完了します。いくつかのファイルはデバイスが再起動されるまで削除されません。</p>

- [終了] をクリックしてアンインストールを完了します。
[今すぐ再起動] を選択した場合、デバイスは再起動されてインストールが完了します。選択しない場合は、再起動するまでアンインストールは完了しません。
- デバイスを再起動した後に次の場所にファイルが残っている場合は、手動で削除することができます。
 - ◆ **CASA** : アンインストール時に CASA を保持するよう選択したものの、後で削除したくなった場合は、Windows の [プログラムの追加と削除] から削除できます。CASA のアンインストールを選択した後も c:\program files\novell\casa ディレクトリが存在する場合は、手動で削除できます。
 - ◆ **ZENworks** : ログファイルはレビュー用に故意に残されています。いつでも手動で ZENworks_installation_path\ZENworks ディレクトリを削除できます。
- Windows の場合、[ZENworks コントロールセンター] アイコンがデスクトップに残っているときは、手動で削除できます。

3.3 Linux プライマリサーバのアンインストール

Linux プライマリサーバから ZENworks ソフトウェアをアンインストールする場合、管理ゾーンからデバイスを削除するか (登録解除する)、または登録したままにできます。次のセクションでは、両方のアンインストールオプションの手順を説明します。

- 61 ページのセクション 3.3.1 「ZENworks ソフトウェアをアンインストールしてゾーンからデバイスを削除する」
- 62 ページのセクション 3.3.2 「デバイスをゾーン内に維持したまま ZENworks ソフトウェアをアンインストールする」

3.3.1 ZENworks ソフトウェアをアンインストールしてゾーンからデバイスを削除する

Linux プライマリサーバから ZENworks ソフトウェアをアンインストールして管理ゾーンからデバイスを削除 (登録解除) するには、サーバコンソールのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
mono /opt/novell/zenworks/bin/ZENworksUninstall.exe -x -s http://IPAddress_of_the_server:port_number -u  
username -p password [options]
```

各要素は次のように指定します。

-x、--remove= デバイスから ZENworks ソフトウェアを削除して、ゾーンからデバイスを削除します。

-s= プライマリサーバの IP アドレスと、サーバが実行されているポート番号。IP アドレスとポート番号は `http://IPAddress_of_the_server:port_number` の形式で指定する必要があります。

注: プライマリサーバがデフォルトポート (80) で実行している場合は、-s 引数を指定する必要はありません。ただし、プライマリサーバがデフォルトポートで実行されていない場合は、ポート番号とともにこの引数を指定する必要があります。

-u = 管理ゾーン管理者のユーザ名。

-p = ゾーン管理者のパスワード。

このコマンドには次のオプションを指定することもできます。

表 3-1 アンインストールオプション

オプション	機能
-z、--zone	デバイスの現在のゾーンの名前。
-g、--guid	デバイスの GUID。
-l、--list	アンインストールする複数のパッケージをセミコロンで区切った順序指定リスト。

オプション	機能
-L、--leave-packages	サードパーティ製パッケージを保持します。少なくとも、保持するパッケージの最初の3文字を指定する必要があります。複数のパッケージ名をカンマ(,)で区切って指定することもできます。
-c、--local-only	ZENworks ソフトウェアをデバイスからアンインストールしますが、ゾーンからはデバイスを削除しません。
-o、--oem	ZENworks Adaptive Agent パッケージをアンインストールしません。
-i、--delete-images	指定したデバイスから ZENworks イメージングファイルを削除します。
-a、--remove-auth	ZENworks 10 Asset Management SP2 によってインストールされた、または Novell サポート Web サイトから直接ダウンロードしてインストールされた認証ソフトウェア (CASA) をアンインストールします。-a オプションを指定しないと、CASA パッケージは保持されます。
-d、--remove-log-dir	ログディレクトリを削除します。
-q、--quiet	サイレントインストールを実行します。
-h、--help	メッセージを表示し、ヘルプを終了します。

3.3.2 デバイスをゾーン内に維持したまま ZENworks ソフトウェアをアンインストールする

Linux プライマリサーバから ZENworks ソフトウェアをアンインストールしてデバイスを管理ゾーンに登録したままにするには、サーバコンソールのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
mono /opt/novell/zenworks/bin/ZENworksUninstall.exe -c -a
```

このコマンドには次のオプションを指定することもできます。

表 3-2 アンインストールオプション

オプション	機能
-c、--local-only	ZENworks ソフトウェアをデバイスからアンインストールしますが、ゾーンからはデバイスを削除しません。
-a、--remove-auth	ZENworks 10 Asset Management SP2 によってインストールされた、または Novell サポート Web サイトから直接ダウンロードしてインストールされた認証ソフトウェア (CASA) をアンインストールします。-a オプションを指定しないと、CASA パッケージは保持されます。
-h、--help	メッセージを表示し、ヘルプを終了します。

このコマンドは、管理ゾーンからデバイスを削除するものではありません。

3.4 Linux サテライトのアンインストール

Linux サテライトで、次のタイプのアンインストールを実行できます。

- ◆ 63 ページのセクション 3.4.1 「ゾーン操作のアンインストール」
- ◆ 64 ページのセクション 3.4.2 「ローカルアンインストール」

デバイスを管理対象デバイスに降格する場合、ZENworks ソフトウェアを Linux サテライトからアンインストールする前に、サテライトの役割 (イメージング、コンテンツ、コレクション) がデバイスから削除された後に限定してアンインストールプログラムを実行する必要があります。サテライトの役割がデバイスで無効になったことを確認するには、`zac satr` コマンドを実行します。

3.4.1 ゾーン操作のアンインストール

ゾーン操作のアンインストールでは、ZENworks Adaptive Agent を Linux サテライトからアンインストール、デバイスに割り当てられたサテライト役割の削除、管理ゾーンからのデバイスの削除を実行します。

- 1 Linux サテライトコンソールプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin/uninstall` と入力してアンインストールプログラムを起動します。
- 2 ロケール番号を入力して、アンインストールプログラムを実行したいロケール (言語) を選択します。

デフォルトのロケール (英語) を選択して、2 を入力するか **Enter** を押します。

ヒント: プロンプトが表示されたときに (**Enter**) キーを押すと、アンインストールプログラムはデフォルト (括弧内に表示されている値) を受け入れます。

- 3 概要テキストを読み、**Enter** を押します。
- 4 [アンインストールのタイプ] 画面で、**Enter** を押して [ゾーン操作] オプションを選択します。
- 5 [ZENworks 管理ゾーンの情報] 画面で、Linux サテライトが登録されているプライマリサーバの IP アドレスを入力します。
- 6 プライマリサーバがリスンするポート番号を入力します。
デフォルトポートの 443 を選択して、**Enter** を押します。
- 7 ゾーン管理者のユーザ名を入力します。
デフォルトのユーザ名 (Administrator) を使用するには、**Enter** を押します。
- 8 ゾーン管理者のパスワードを入力します。
- 9 (条件付き) Linux サテライトにイメージング役割が設定されている場合、アンインストール後にイメージを保持するよう求められます。イメージを保持するには、**Enter** を押します。
- 10 概要を確認し、**Enter** を押してアンインストールを開始します。

Linux サテライトにサテライト役割が割り当てられている場合、ZENworks アンインストールプログラムは ZENworks Adaptive Agent をアンインストールしません。次のアクションを実行します。

- ◆ すべてのサテライト役割をデバイスから削除します。

- ◆ サテライト役割に関連するすべての RPM をデバイスから削除します。
- ◆ ZENworks コントロールセンターからデバイスのエントリを削除します ([環境設定] タブ > [サーバ階層] パネル)。

Linux サテライトに、割り当てられたサテライト役割がない場合、ZENworks アンインストールプログラムは次のことを実行します。

- ◆ ZENworks Adaptive Agent をアンインストールします。
- ◆ ZENworks コントロールセンターからデバイスオブジェクトを削除します ([デバイス] タブ > [管理対象] タブ > [サーバ] フォルダ)。

11 (条件付き) アンインストールが失敗した場合は、次のログファイルを参照してください。

- ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/Zenworks_Satellite_Server_Uninstalltimestamp.xml
- ◆ /tmp/err.log

3.4.2 ローカルアンインストール

ローカルアンインストールオプションは、ZENworks Adaptive Agent のみをアンインストールします。

1 Linux サテライトをアンインストールする権限があることを確認してください。

ZENworks コントロールセンターでゾーン管理者が [ユーザにエージェントのアンインストールを許可します] オプションを選択しておく必要があります ([環境設定] タブ > [管理ゾーンの設定] > [デバイス管理] > [ZENworks エージェント] > [全般])。

2 Linux サテライトコンソールプロンプトで、/opt/novell/zenworks/bin/uninstall と入力してアンインストールプログラムを起動します。

3 ロケール番号を入力して、アンインストールプログラムを実行したいロケール (言語) を選択します。

デフォルトのロケール (英語) を選択して、2 を入力するか Enter を押します。

ヒント: プロンプトが表示されたときに (Enter) キーを押すと、アンインストールプログラムはデフォルト (括弧内に表示されている値) を受け入れます。

4 概要テキストを読み、Enter を押します。

5 [アンインストールのタイプ] 画面で、2 を入力して [ローカルアンインストール] オプションを選択し、Enter をもう一度押して選択を確定します。

6 (条件付き) Linux サテライトにイメージング役割が設定されている場合、アンインストール後にイメージを保持するよう求められます。イメージを保持するには、Enter を押します。

7 概要を確認し、Enter を押してアンインストールを開始します。

ZENworks アンインストールプログラムは、Linux サテライトに関連するすべての RPM を削除して、ZENworks Adaptive Agent をアンインストールします。

8 (条件付き) アンインストールが失敗した場合は、次のログファイルを参照してください。

- ◆ /var/opt/novell/log/zenworks/Zenworks_Satellite_Server_Uninstalltimestamp.xml
- ◆ /tmp/err.log

ZENworks Adaptive Agent をアンインストールした後、Linux デバイスオブジェクトは ZENworks コントロールセンターに表示されたままです ([環境設定] タブ > [サーバ階層] パネル)。これは、役割に関連するすべてのパッケージと RPM がデバイスから削除されても、すべてのサテライト役割があるためです。オブジェクトを削除するには、ZENworks コントロールセンターで次のことを実行します。

- 1 サテライトに割り当てられた役割を削除します。

役割の削除方法については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「サーバ階層からのサテライトの削除」を参照してください。

- 2 [デバイス] タブ > [サーバ] フォルダの順にクリックします。
- 3 Linux サーバの横にあるチェックボックスをオンにして、[削除] をクリックします。

インストール実行可能引数

A

Novell® ZENworks® 10 Asset Management SP2 をインストールするには、次の引数をインストール DVD に収められている setup.exe および setup.sh 実行可能ファイルとともに使用することができます。これらのファイルはコマンドラインから実行できます。

権限の問題を防ぐため、setup.sh とともに sh コマンドを使用することをお勧めします。

表 A-1 インストール実行可能引数

引数	長いフォーム	説明
-e	--console	(Linux のみ) コマンドラインインストールを強制します。
-l	--database-location	カスタム OEM (組み込み) データベースディレクトリを指定します。
-c	--create-db	データベース管理ツールを起動します。 この引数は、-o 引数と同時に使用できません。
-o	--sysbase-oem	インストールプログラムによって設定されていない OEM データベースを認証します。これによりインストールプログラムが、通常のデータベースオプションの代わりに外部データベースに必要なデータベースオプションのみを表示するようになります。 この引数は、-c 引数と同時に使用できません。
-s	--silent	-f 引数と一緒に使用されない場合は、編集、名前変更、および別のサーバへの無干渉インストールに使用するレスポンスファイル (.properties ファイル名拡張子付き) を作成するために実行しているインストールが実行されます。 -f 引数と一緒に使用された場合は、-f 引数と一緒に指定したレスポンスファイルを使用してサーバ上での無干渉インストールが開始されます。
-f [ファイルへのパス]	--property-file [ファイルへのパス]	-s 引数と一緒に使用して、指定したレスポンスファイルを使用して無干渉 (サイレント) インストールを実行します。 レスポンスファイルを指定していない場合、またはパスやファイル名が間違っている場合は、代わりに、サイレント形式ではないデフォルトの GUI インストールまたはコマンドラインインストールが使用されます。

次に例を示します。

- ◆ Linux サーバ上でコマンドラインインストールを実行するには、次のコマンドを使用します。

```
sh unzip_location/Disk1/setup.sh -e
```

- ◆ データベースディレクトリを指定するには、次のコマンドを使用します。

```
unzip_location\disk1\setup.exe -l d:\databases\sybase
```

- ◆ レスポンスファイルを作成するには、次のコマンドを使用します。

```
unzip_location\disk1\setup.exe -s
```

- ◆ 無干渉インストールを実行するには、次のコマンドを使用します。

```
unzip_location\disk1\setup.exe -s -f c:\temp\myinstall_1.properties
```

トラブルシューティング

B

次のセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Management SP2 のインストールまたはアンインストール中に発生する可能性のある問題の解決方法について説明します。

- 69 ページのセクション B.1 「インストールのトラブルシューティング」
- 73 ページのセクション B.2 「アンインストールのエラーメッセージ」

B.1 インストールのトラブルシューティング

このセクションでは、ZENworks 10 Management SP2 のインストール時に発生する可能性のある問題の解決方法について説明します。

- 69 ページの「ZENworks コントロールセンターおよびインストールログが、Linux の ZENworks 10 Configuration Management SP2 のインストール後に表示される」
- 70 ページの「64 ビット版 Windows Server 2003 および 64 ビット版 Windows Server 2008 で、ZENworks 10 Configuration Management SP2 のインストールが失敗する場合があります」
- 71 ページの「Linux デバイスのルートディレクトリからインストールすると、自己署名証明書の作成に失敗する」
- 71 ページの「ZENworks サーバの Oracle データベースへの設定が失敗する」
- 71 ページの「ZENworks 10 Configuration Management SP2 インストールプログラムを実行する Windows デバイスと、リモートデスクトップセッションを確立できない」
- 72 ページの「2 つ目のサーバをインストールするとエラーメッセージが表示される」
- 72 ページの「Linux の Mono インストールが失敗する」
- 72 ページの「HotSpot 仮想マシンによって検出されたエラーのために ConfigureAction が失敗する」
- 73 ページの「ZENworks がインストールされているデバイス上で Novell Client 32 から NetIdentity をインストールできない」

ZENworks コントロールセンターおよびインストールログが、Linux の ZENworks 10 Configuration Management SP2 のインストール後に表示される

ソース：ZENworks 10 Management SP2。Linux へのインストール。

説明：setup.sh をダブルクリックして Linux デバイス上での ZENworks のインストールを実行すると、選択したオプションを表示する Firefox が自動的に起動しないため、次のオプションが機能しません。

- Readme の表示
- インストールログの表示
- ZENworks コントロールセンターの起動

アクション： 次のいずれかのタスクを実行します。

- ◆ ZENworks コントロールセンターを起動するには、Web ブラウザを使用して次の URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address`

`ZENworks_Server_Address` は、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えてください。ZENworks コントロールセンターへのアクセス方法については、『ZENworks 10 Management システム管理リファレンス』の「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」を参照してください。

- ◆ インストールログを表示するには、`var/opt/novell/log/zenworks/` ディレクトリにある `ZENworks_Installtimestamp.xml` ファイルを参照してください。
- ◆ Readme を表示するには、ZENworks 10 Asset Management マニュアル Web サイト (<http://www.novell.com/documentation/zam10>) を参照してください。

ヒント： インストールプログラムを、`setup.sh` コマンドをコンソールプロンプトから入力して実行する場合、オプションは自動的に Firefox に表示されます。

64 ビット版 Windows Server 2003 および 64 ビット版 Windows Server 2008 で、ZENworks 10 Configuration Management SP2 のインストールが失敗する場合がある

ソース： ZENworks 10 Management SP2。インストール。

説明： ZENworks 10 Management SP2 を 64 ビット版 Windows Server 2003 または 64 ビット版 Windows Server 2008 にインストールしている場合、Windows インストーラ (`msiexec`) ユーティリティのためにインストールが失敗またはハングすることがあります。インストールログには次のメッセージが記録されます。

```
Msiexec returned 1603:
```

考えられる原因： デバイスに Windows インストーラ 4.5 がインストールされていない。

アクション： 64 ビット版 Windows Server 2003 または 64 ビット版 Windows Server 2008 デバイスで、次のことを実行します。

- 1** Windows インストーラ (`msiexec`) ユーティリティを Windows インストーラ 4.5 以降にアップグレードします。Windows インストーラ 4.5 へのアップグレード方法については、[Microsoft ヘルプとサポート Web サイト \(http://support.microsoft.com/KB/942288\)](http://support.microsoft.com/KB/942288) を参照してください。
- 2** ZENworks 10 Configuration Management SP2 を再インストールします。

2a Novell ZENworks 10 インストール DVD で、`install\disk\instdata\windows\vm` に移動して次のコマンドを実行します。

```
install.exe -Dzenworks.configure.force=true
```

2b 表示されるインストールウィザードの指示に従ってください。

詳細については、[42 ページのセクション 2.4 「インストールの実行」](#)を参照してください。

Linux デバイスのルートディレクトリからインストールすると、自己署名証明書の作成に失敗する

ソース：ZENworks 10 Management SP2。インストール。

アクション：Linux デバイスで、ZENworks 10 インストール ISO イメージをダウンロードして、すべてのユーザが読み込みおよび実行権限を持つ適当な場所に一時的にコピーします。

ZENworks サーバの Oracle データベースへの設定が失敗する

ソース：ZENworks 10 Management SP2。インストール。

説明：NLS_CHARACTERSET パラメータが AL32UTF8 に設定されず、NLS_NCHAR_CHARACTERSET パラメータが AL16UTF16 に設定されず、次のエラーメッセージが表示されてデータベースインストールが失敗します。

```
Failed to run the sql script: localization-updater.sql,
message:Failed to execute the SQL command: insert into
zLocalizedMessage(messageid,lang,messagestr)
values('POLICYHANDLERS.EPE.INVALID_VALUE_FORMAT','fr','La
stratÃ©gie {0} n'a
pas pu Ã©tre appliquÃ©e du fait que la valeur de la variable
"{1}" n'est pas
dans un format valide. '),
message:ORA-00600: internal error code, arguments:
[ktfbbsearch-7], [8], [],
[], [], [], [], []
```

アクション：NLS_CHARACTERSET パラメータを AL32UTF8 に、NLS_NCHAR_CHARACTERSET パラメータを AL16UTF16 に設定します。

文字セットパラメータが推奨値で設定されていることを確認するには、データベースプロンプトで次のクエリを実行します。

```
select parameter, value from nls_database_parameters where
parameter like '%CHARACTERSET%';
```

ZENworks 10 Configuration Management SP2 インストールプログラムを実行する Windows デバイスと、リモートデスクトップセッションを確立できない

ソース：ZENworks 10 Management SP2。インストール。

説明：リモートデスクトップ接続を使用して ZENworks 10 Configuration Management SP2 インストールプログラムを実行している Windows サーバと接続しようとする場合、セッションは次のエラーメッセージで終了します。

```
The RDP protocol component "DATA ENCRYPTION" detected an
error in the protocol stream and has disconnected the client.
```

アクション: [Microsoft ヘルプとサポート Web サイト \(http://support.microsoft.com/kb/323497\)](http://support.microsoft.com/kb/323497) を参照してください。

2 つ目のサーバをインストールするとエラーメッセージが表示される

ソース: ZENworks 10 Management SP2。インストール。

説明: 管理ゾーンに 2 つ目のサーバをインストールすると、インストールの最後に、メッセージの一部に次のテキストが含まれたエラーメッセージが表示される場合があります。

```
... FatalInstallException Name is null
```

ただし、それ以外の点ではインストールは正しく完了している可能性があります。

このエラーは、プログラムがサーバを再設定する必要があると判断してしまったために (実際にはその必要はありません)、誤って表示されます。

アクション: インストールのログファイルを確認します。このエラーメッセージに関連するエラーがない場合は、無視して構いません。

Linux の Mono インストールが失敗する

ソース: ZENworks 10 Management SP2。インストール。

考えられる原因: ZENworks 10 インストール ISO イメージを展開したディレクトリにスペースがあり、ZENworks とバンドルした Mono のインストールを選択した場合、Linux での Mono インストールは失敗する。

アクション: インストール ISO イメージを展開する先のディレクトリにスペースが含まれていないことを確認します。

HotSpot 仮想マシンによって検出されたエラーのために ConfigureAction が失敗する

ソース: ZENworks 10 Management SP2。インストール。

説明: Linux* デバイスに最初のプライマリサーバをインストールする場合や、データベース設定プロセスの最後にエラーが発生し、続行するか、それともロールバックするかを選択するオプションが表示された場合は、`/var/opt/novell/log/zenworks/ZENworks_Install_[date].log.xml` にあるログファイルを確認してください。次に指定されているエラーが表示された場合は、インストールを続行しても問題ありません。

```
ConfigureAction failed!:
```

```
select tableName, internalName, defaultValue from Adf where  
inUse =?#
```

```
An unexpected error has been detected by HotSpot Virtual  
Machine:
```

```
#SIGSEGV (0xb) at pc=0xb7f6e340, pid=11887, tid=2284317600
```

```
#
```

```
#Java VM: Java HotSpot(TM) Server VM (1.5.0_11-b03 mixed  
mode)
```

```
#Problematic frame:
```

```
#C [libpthread.so.0+0x7340] __pthread_mutex_lock+0x20
```

アクション： このエラーメッセージは無視してください。

ZENworks がインストールされているデバイス上で Novell Client 32 から NetIdentity をインストールできない

ソース： ZENworks 10 Management SP2。インストール。

説明： ZENworks Asset Management がインストールされているデバイスに、Novell Client32™ に付属の NetIdentity エージェントをインストールすると、次のエラーメッセージが表示されてインストールが失敗します。

An incompatible version of Novell ZENworks Desktop Management Agent has been detected

考えられる原因： ZENworks のインストール前に NetIdentity エージェントがインストールされていない。

アクション： 次を実行します。

- 1 ZENworks Asset Management をアンインストールします。
ZENworks Asset Management のアンインストール方法については、[57 ページの第 3 章「ZENworks 10 Asset Management SP2 のアンインストール」](#)を参照してください。
- 2 Novell Client32 から NetIdentity エージェントをインストールします。
- 3 ZENworks Asset Management をインストールします。
ZENworks Asset Management のインストール方法については、[29 ページの第 2 章「ZENworks 10 Asset Management SP2 のインストール」](#)を参照してください。

B.2 アンインストールのエラーメッセージ

このセクションでは、ZENworks 10 Configuration Management SP2 のアンインストール時に発生する可能性のあるエラーの詳細について説明します。

- ♦ 73 ページの「管理ゾーンにデバイスが存在しないため続行できません。詳細については、<http://www.novell.com/documentation/zam10> を参照してください。」
- ♦ 74 ページの「アンインストーラがデバイスに割り当てられた役割を識別できないため続行できません。詳細については、<http://www.novell.com/documentation/zam10> を参照してください。」

管理ゾーンにデバイスが存在しないため続行できません。詳細については、<http://www.novell.com/documentation/zam10> を参照してください。

ソース： ZENworks 10 Management SP2。Linux サテライトでのアンインストール。

考えられる原因： Linux サテライトが登録されているプライマリサーバの指定された IP アドレスが正しくありません。

アクション： Linux サテライトが登録されているプライマリサーバに、正しい IP アドレスを指定します。

**アンインストーラがデバイスに割り当てられた役割を識別できないため続行できません。
詳細については、<http://www.novell.com/documentation/zam10> を参照してください。**

ソース： ZENworks 10 Management SP2。Linux でのアンインストール。サテライト。

アクション： Linux サテライトが登録されているプライマリサーバが稼働しており、サーバが Linux サテライトからアクセスできることを確認します。

アクション： 問題の詳細は、次のログを参照してください。

```
/var/opt/novell/log/zenworks/Zenworks_Satellite_Servertimestamp.xml  
/tmp/err.log
```

アクション： 問題が解決しない場合は、[Novell Support \(http://www.novell.com/support\)](http://www.novell.com/support) にお問い合わせください。